

# 幼児の教育

第五十卷 第十一號

日本幼稚園協會



Kazuo

11

★キンダーブックの愛読者へお薦めする★

# トツパンの愛児えほん

新発賣品

かわいい愛児のために

安くて丈夫で美しい

愛児えほんを

のりもの

☆九月中旬刊☆  
村上松次郎画

内田武夫画

かわいい  
どうぶつ

—以下續刊



各册B5特判12頁  
定 價 5 0 円

●御注文はフレールベル館

又は最寄保育館へ

株式會社

トツパン

東京都中央区  
日本橋茅場町1の20

第五十卷 幼 兒 の 教 育 第 十 一 號

~~~~目 次~~~~

|  |                                          |               |
|--|------------------------------------------|---------------|
|  | 獨立心と世界心の教育……………                          | 倉橋惣三……………(2)  |
|  | 数から見た幼児教育施設の現状……………                      | 村上米子……………(4)  |
|  | 言葉に現われた幼児の情緒の一端……………                     | 鈴木正子……………(14) |
|  | 「婦人とこども」創刊當時のこどもと<br>其の頃の幼稚園の状況について…………… | 東基吉……………(20)  |
|  | アメリカ童話から(一一)……………                        | 松原至大……………(31) |
|  | 私の記録から(三)……………                           | 堀合文子……………(34) |
|  | 第五回全國保育大會記……………                          | ……………(40)     |
|  | 第二回全國國公立幼稚園長會……………                       | ……………(44)     |
|  | (講評)幼児の健康保育(十三)……………                     | 平井信義……………(47) |
|  | 會から……………                                 | ……………(52)     |

(表紙……脇田和)



## 獨立心と世界心の教育

——講和を機として——

倉 橋 惣 三

獨立心と世界心の教育の重要なことは、被占領期間においても、重んじられなければならぬ教育目的であつた。しかし、国として自主性をもち得ず、対等の国際關係ができなかつたきうまでには、思想として重んじられなければならぬと  
いうに止まつて、現実には真に体験せられ得ないことであつた。従つて、具現の教育目的として、生活の實際に即し難いことを免れ得なかつた。われらは決して依頼心を教えようとはしなかつた。しかし、絶対自立の心を満喫せしめることはできなかつた。世界心についても、その心得と心がけとの多くを学んだ。しかし、それは必ずしも自覚の世界心ではなかつたかもしれない。教育がこうした已み難き限界におかれた

ことは、きのうまでの国情の、どうすることもできない悲嘆であつた。而して此の悲嘆は、青年教育においても、少年教育においても、幼年教育においても、同じであつた。われら自らが、この現実の限界をわきまえて、適應するところあつたのは、理解と得心と希望との下に耐えつゞけたとして、若きもの小さきものに、これを課することは、目前常につらいことであつた。更に将来のために深く憂慮を禁じ得ないところでもあつた。

爾來六年。これからは、獨立國家としての獨立心の教育が、世界國家としての世界心の教育が、國民生活そのものの獨立的世界的現實に即して實現せられ得るのである。講和は蘇りであるが、この蘇りは、単に外的關係の蘇りであるだけでなく、新生する内質の蘇りでなければならぬ。われら幼児

教育者も、その教育目的に、眞の独立心の教育と世界心の教育とを正しく強く蘇らせなくてはならない。

## 二

もうこれからは、被<sup>レ</sup>占領下の日本製品 (Made in occupied Japan) と特記してある玩具を、子供の前に持ち出さなくともいへ。聯合軍の命により、(By the command of allied forces) という揭示を子供の目の前に押しつけなくてもよい。そういうものを見なれさせることが、子供の独立心に及ぼす影響について、われらの胸は如何に痛められたであつたらう。外国人に対して、親しむ心、感謝する心は偽りないことであつたが、そのなかには、与ゆることなく、たゞ受ける非対等關係の心が混ざることがないとは言えなかつたりした。世界心の健全を曇らせるものがないとも言えなかつたりした。若しこれらの状態が、これ以上長くつゞいたら、われらの子供の臨時的(?) 国民感情が、更に怖るべき漫性的なものにならなかつたとも言えないのである。講和条約調印の日、日本人は、いろ／＼の意味でホツとした感じをもつたと言つてゐるが、教育としては、これからこそ、眞の独立心と世界心の教育ができる喜びである。但し、それは決して安易に行われ得ることではない。苦惱と憂慮(講和全権の言葉)なしにはあり得ないことであるのは明かである。しかも、そうしてこそ、眞に眞なる独立心も世界心も教育されるであらう。

うし、それをしつかりしないと、六年間の悲しい癖が、後に残つたりしては困る。―独立心のないところに眞の世界心はないし、世界心のない独立心は正しい独立心であり得ない。

## 三

独立心にいろ／＼の面があるが、こゝで重要に思うのは、第一に自主的精神のことである。第二に自力行動のことである。幼児の場合、自力行動は自分の力を用いないで人にたよることである。自主的精神とは、幼いなりに自分の考え方と判断の決定力をもつことである。いずれも、日常生活の間において指導されてゆくし、強められてゆく。但し頑固は似而非自立心である。

世界心は思想として觀念としては、幼児には充実し難いが、世界心を妨げ、世界心に反する心の動きを防ぎとめることは、幼児生活の指導の間において充分意を用い得るし、徹底させることもできる。殊に独立心を失わない世界心を心掛けることによつて、似而非世界心を斥けることができる。

思えば、太平洋戦争以来、独立心と世界心との正しさを失うこと久しかつた。この間、諸文化の空白を慚くことは多いが、国民精神として最も遺憾であつたのは、この点である。その恢復のために、全面的努力、細心の注意を払わなければならぬ。このことを講和直後の本誌本号の巻頭に語るのは、幼児教育の当面の重要問題としてとあることは(三〇頁へ)

# 数から見た幼児教育施設の現状

文部省調査普及局調査課

村 上 米 子

最近の就学前教育及至保育施設は、幼稚園（昭二五・四・三〇現在）二、一〇〇、保育所（昭二五・二・一五現在）二、八七一であつて、幼稚園では終戦後最大の数を示している事はもちろん終戦前の最高であつた昭和一二年とほぼ同じで、この施設の復興進展のめざましさを物語つている。即ち幾多の戦災によつて終戦後の昭和二二年には総数一、四一九にすぎなかつたが、次いで二三年一、五二七、二四年一、七八七と年々激増をみて二五年に至つた。保育所も、二四年の二、三五三から二五年は二、八七一と一年間に五一八施設の増加をみた程である。

このめざましい復興は幼児教育にとつて喜ばしいことであるが、その内容はさて置き、地方別等からみて、この数量の分布状況はどうであろうかをこの際少しく検討してみたい。

この事は将来において就学前教育が一層充実されねばならぬとすれば、また幼稚園と保育所の関係がもつと合理化されね

ばならぬとすれば、その場合の問題所在について何等かの示唆を与えるのではないかと思われる。

## 一、幼稚園及び保育所施設の概観

先ず幼稚園は第一表によると昭和二五年度には二、一〇〇を数えているが、そのうち国立三三、公立八四一、私立一、二二六であつて私立は総数の五八・四％を占める。府県別には東京の三〇七施設を筆頭に、兵庫二一五、大阪一五〇、徳島一一五、等が多く、高知三、山形七、富山八、鳥取九などが最小となつており、詳細はさておき、地方別にいうと（第二表参照）概して近畿、中国、四国等関西方面と関東地方に多く、北部地方の青森、岩手、宮城、秋田等に少くなつてゐる。

昭和二三年來の増加の状況を、第三表の指数によつてみると、総数では二三年の一〇〇に対して二四年一一七、二五年

第 1 表 (文部統計連報による)

昭和 25 年 4 月 30 日現在

|     | 園 数   |     |     |       |
|-----|-------|-----|-----|-------|
|     | 計     | 国 立 | 公 立 | 私 立   |
| 北海道 | 32    | -   | 1   | 31    |
| 道森手 | 16    | 1   | 3   | 12    |
| 道城田 | 17    | 1   | 1   | 15    |
| 道形島 | 14    | 1   | 2   | 11    |
| 道城木 | 12    | 1   | -   | 11    |
| 道島城 | 7     | 1   | -   | 6     |
| 道本島 | 29    | -   | 12  | 17    |
| 道玉葉 | 23    | -   | 9   | 14    |
| 道京川 | 12    | 1   | -   | 11    |
| 道東神 | 23    | 1   | 12  | 10    |
| 道新富 | 56    | 1   | 3   | 52    |
| 道石福 | 31    | 1   | 13  | 17    |
| 道山長 | 307   | 2   | 43  | 262   |
| 道野阜 | 68    | -   | 5   | 63    |
| 道重賀 | 17    | 1   | 4   | 12    |
| 道都  | 8     | 1   | 2   | 5     |
| 道阪  | 33    | 1   | 5   | 27    |
| 道庫  | 36    | -   | 26  | 10    |
| 道良山 | 15    | 1   | -   | 14    |
| 道取根 | 18    | -   | 2   | 16    |
| 道山島 | 24    | -   | 14  | 10    |
| 道口島 | 93    | 1   | 19  | 73    |
| 道媛知 | 79    | 1   | 31  | 47    |
| 道岡  | 37    | 1   | 23  | 13    |
| 道香  | 28    | -   | 17  | 11    |
| 道高  | 90    | 1   | 36  | 53    |
| 道福  | 150   | 2   | 69  | 79    |
| 道佐  | 215   | 1   | 148 | 66    |
| 道长  | 24    | 2   | 12  | 10    |
| 熊大  | 23    | -   | 12  | 11    |
| 宮   | 9     | -   | 2   | 7     |
| 鹿   | 18    | -   | 13  | 5     |
|     | 89    | 1   | 76  | 12    |
|     | 70    | 1   | 25  | 44    |
|     | 25    | -   | 7   | 18    |
|     | 115   | 1   | 111 | 3     |
|     | 47    | 1   | 32  | 14    |
|     | 15    | 1   | 2   | 12    |
|     | 3     | -   | -   | 3     |
|     | 37    | -   | 1   | 36    |
|     | 10    | -   | 1   | 9     |
|     | 26    | 1   | 6   | 19    |
|     | 22    | 1   | 13  | 8     |
|     | 42    | 1   | 28  | 13    |
|     | 19    | -   | -   | 19    |
|     | 16    | 1   | -   | 15    |
| 合 計 | 2,100 | 33  | 841 | 1,226 |

一三八で増加の大きいことが知られる。設立者別では国立が二四年に九七(実数は一施設減)に減じたが、公立二四年一〇〇、二五年一一九、私立二四年一二二、二五年一五四となつており、増加は私立に著しい。しかし府県別には必ずしも私立が盛んであるとはいえず、施設の多い府県のみについてみても、東京で二三年七五・八%、二五年八五・三%、大阪では両年度共約五三%が私立であるのに比べ、兵庫、徳島は私立は少く、両年共兵庫では約三〇%、徳島は約三%にすぎず、幼稚園の普及発展の様相は一様でないといえよう。

次に幼児数は昭和二五年で総数二二四、五九一(内国立二

九五二、公立一〇七、五四四、私立一一四、〇九五)で、これは前年に比し、園数の増加と逆に四、二一一の減少をみる事が注目される。設立者別には国立三三減、公立四、一七八減、私立は一、九九増加である。施設では国立一、公立六二私立二五〇が夫々前年度より増してあり、幼児数の増加した私立でも施設の二五〇増に対して幼児数はわずか一、二九九という少い増加である。この理由について考えるに、最も新しい人口表たる昭和二二年の国勢調査の年令別人口を見ると〇才二、四九七、六三五・一才一、五五五、三〇四・二才一六四七、八三九・三才二、〇〇八、三一九であつて、昭和二

第二表

| 地方別    | 都道府県名                          | 県平均施設数 |
|--------|--------------------------------|--------|
| 北海道    | 北海道                            | 32     |
| 北部地方   | 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟           | 16     |
| 関東地方   | 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、静岡 | 65     |
| 東海北陸地方 | 富山、石川、福井、岐阜、愛知、三重              | 36     |
| 近畿地方   | 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山             | 88     |
| 中国地方   | 鳥取、島根、岡山、広島、山口                 | 42     |
| 四国地方   | 徳島、香川、愛媛、高知                    | 45     |
| 九州地方   | 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島          | 25     |
| 全国平均   |                                | 46     |

備考 この地方別比較は概略をみたもので、例えば四国地方では相当普及している如くみられるが、第一表の如く徳島では一・一五であるのに、高知はわずか三という少である事などの考察が必要である。

五年の満四、五才児に該当する当時の一、二才児は夫々その前後と比しても少いし、一、二才の合計は三、二〇三、一四三（総人口の四・一％）であり、昭和二十四年の満四、五才児に該当する当時の二、三才の合計は三、六一六、一五九（総人口四・六％）で前者と後者の差は四一三、〇一六もある。

第 3 表

幼稚園施設増減指数表

| 年度   | 国 立 |     | 公 立 |     | 私 立   |     | 合 計   |     |
|------|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-------|-----|
|      | 実 数 | 指 数 | 実 数 | 指 数 | 実 数   | 指 数 | 実 数   | 指 数 |
| 昭 23 | 33  | 100 | 705 | 100 | 798   | 100 | 6,527 | 100 |
| 〃 24 | 32  | 97  | 779 | 110 | 976   | 122 | 1,787 | 117 |
| 〃 25 | 33  | 100 | 841 | 119 | 1,226 | 154 | 2,100 | 138 |

これからみて戦争等の影響で全国的に四、五才の幼児数が減少をみており、幼稚園児の大部分は満四、五才がその大部分を占めるから、これが幼稚園児の減少の主因とみてよいであろう。次に保育所であるが、幼児教育の一端をになう保育所は、昭和二十五年一月現在二、八七一（内公立七六五、二六・六％）である。前年に比すると公立では一九〇、私立三三八、合計五一八の増加である。府県別には福岡が最も多く二〇六、次いで愛知一八六、兵庫一五六、東京一四五、山口一三三、広島一一二、大阪一一四、新潟一〇二、岡山一〇一等であり、少くところは栃木七、滋賀一二、宮崎一四である。これによつて知られるのは、幼稚園より保育所の多い事（総数で一・四倍）及び幼稚園施設が多い府県に必ずしも保育所も多いというわけではな



い事である。即ち兩者を夫々府県別にみると幼稚園が保育所より多いのは、埼玉、滋賀、徳島（以上指数〇・四。指数は幼稚園を一とした保育所の数である）東京（指数〇・五）栃木（指数〇・六）静岡、宮崎、兵庫（夫々指数〇・七）大阪大分（夫々指数〇・八）福井、香川（夫々指数〇・九）の一三都府県であり、保育所の多いのは保育所が幼稚園の二二・七倍という高知をはじめ、新潟（六倍）富山、福島（夫々五・六倍）愛媛（五・五倍）山口（五・三倍）長野（四・一倍）等三三府県がある。特に高知においては保育所が殆んど幼稚園に代つて存在しているといえよう。この前々年即ち昭和二三年度における幼稚園と保育所は、同じく保育所が多く、総数で一・五倍、府県別では保育所の多いのが高知（一二倍）佐賀（一一・三倍）新潟、福岡（夫々五・八及び五・五倍）等が著しいところで、これらを含め幼稚園より保育所の多いのが全国で三九を数えていた。これにくらべれば二五年は例えば総数の一・五倍が一・四倍となつた事、保育所の多い府県が三九であつたのが三三府県となるほど、やゝ保育所より幼稚園が増加したといえる。しかし個々に見れば全く別のこともあつて、例えば高知の如きは幼稚園では二三年の四施設は二五年二五年には三に減じ、保育所は二三年四八、二五年六八と実に二〇施設の増加をみたほどである。

保育所の幼児数は総数二四八、七七五―しかしこれは満二才以上で、満二才以上三才未満はごく少く、二四年度で満二才未満も含めて〇五五％しかない―でこのうち満二才以上三

才未満だけでかりに〇・五五％とみて、幼稚園該当幼児と同様満三才以上は概算二四七、四〇七となる。これを幼稚園と比べると、保育所の幼児は幼稚園幼児の一・一倍で施設数の一・四倍より少い。

この保育所総幼児数の内訳は、児童福祉法（第二四条）市長村長は、保護者の労働又は疾病等の事由によりその監護すべき乳児又は幼児の保育に欠けるところがあると認めるときその乳児又は幼児を保育所に入所させ保育しなければならぬ。後略）による措置者が一三七、六六〇、それ以外の私的契約者一一一、一一五であり、前者は五五・三％で半数以上を占める。

各府県における幼稚園と保育所の状況は右の如くで、府県における差違の著しいことがみられ、その理由の一部には(1)中央関係当局の態度の反映。(2)保育所の国庫補助、一般平衡交付金で保育所は挙げられているが、幼稚園は挙げられていない。(3)一園平均幼児数からみて、幼稚園は二三年一三〇二五年一〇七、保育所では二四年九二、二五年八七といずれも保育所が少く、保育所が概して幼稚園よりその規模が小さいこと、即ちその設置ないし経営の容易さなどが考えられる。

しかし就学前幼児にとつて、児童福祉施設で事足りるか、又教育施設であらねばならぬかは、単に関係当局、各府県の熱意、態度又は一方的見解では解決すべきではないである。

## 二、人口と施設

以上施設幼児数についてその実数の上から概観したが、次に主として幼稚園について都道府県別に、又都市と町村別に人口の面からその施設をみる事とする。これによつて幼児施設の普及、分布の現状をある程度具体的に見ることが出来るであらう。

先ず昭和二五年度で幼稚園が人口何人につき一園あるかは第四表の如くである。

| 施設   | 人口     | 幼児数     | 平均  |
|------|--------|---------|-----|
| 徳兵衛  | 7,639  | 63,288  | 8.3 |
| 島庫山  | 15,394 | 64,356  | 4.2 |
| 徳兵衛  | 18,654 | 66,786  | 3.6 |
| 岡香   | 20,128 | 69,001  | 3.4 |
| 京東   | 20,366 | 69,625  | 3.4 |
| 福大   | 20,448 | 71,117  | 3.5 |
| 静石   | 20,899 | 79,219  | 3.8 |
| 石広   | 20,899 | 80,242  | 3.8 |
| 大滋   | 25,714 | 83,072  | 3.2 |
| 奈神   | 26,575 | 88,670  | 3.3 |
| 三和   | 29,008 | 94,508  | 3.3 |
| 愛島   | 29,028 | 95,410  | 3.3 |
| 山宮   | 29,833 | 101,459 | 3.4 |
| 山口   | 30,756 | 109,086 | 3.5 |
| 根梨   | 31,828 | 112,757 | 3.5 |
| 崎口   | 36,583 | 114,491 | 3.1 |
|      | 38,329 | 118,817 | 3.1 |
|      | 39,492 | 126,099 | 3.2 |
|      | 42,701 | 129,205 | 3.0 |
|      | 42,919 | 134,236 | 3.1 |
|      | 50,697 | 144,765 | 2.9 |
|      | 54,091 | 193,907 | 3.6 |
|      | 57,444 | 291,291 | 5.1 |
|      | 61,635 | 39,619  | 0.6 |
| 全国平均 |        |         | 3.9 |

備考 人口は昭和二五年度国勢調査の結果により算出した。

即ち全国では三九、六一九人に幼稚園が一施設ある割合で

この人口は大分県佐伯市(三九、七七六)千葉県野田市(三八、八七五)岩手県宮古市(三九、二五五)北海道苫小牧市(三九、二二六)山口県下松市(三九、九二二)新潟県柏崎市(三八、一四二)富山県上新川郡(三九、三三一)岐阜県大野郡(三九、八二二)福岡県嘉穂郡穂波村(三九、七七二)鹿児島県揖宿郡頸娃町(三九、四八三)等の人口に相当し、都市ならば小都市程度に幼稚園が一つあるというわけである。これを昭和二十三年の全国平均一施設当り人口五二、五三二に比べれば、幼稚園の普及は除々に進んではいるといえよう。府県別にみて普及している府県、即ち一施設当り人口の少いのは、第一に徳島で七、六三九人、次いで兵庫、岡山、香川、京都、東京、福井等で、多いのは高知(二九一、二九一)山形、新潟でこれを徳島に比べると、高知は徳島の三八倍、山形二五倍で、両者の普及の差は著しいことが知られる。

次に幼児数の方からは、人口一万につき幼児数は(第五表参照)全国平均で幼稚園二七人、保育所三〇人、幼稚園で幼児数の多いのは、第一位に徳島(一一一)次いで兵庫(七〇)岡山(五八)香川(五七)京都(五六)大阪、静岡(夫々五一)で少いのは高知のわずか三をはじめ、山形(六)鹿児島(八)愛媛(九)などがある。保育所の幼児を合せて多いのは、徳島(一一四)兵庫(一〇四)香川(一〇一)石川(九六)京都(九四)広島(八九)高知(八七)等であり、幼稚園のみでは最少であつた高知の幼児数が第七位となつてい

第 5 表

|                           |                                 | 人口1万当り幼児数 |     |     |
|---------------------------|---------------------------------|-----------|-----|-----|
|                           |                                 | 幼稚園       | 保育所 | 合 計 |
| 徳兵岡香京静大福東大奈石滋三広愛和島群島神崎岐山熊 | 島庫山川都岡阪井京分良川賀重島知山根馬取川玉阜口<br>歌 奈 | 111       | 33  | 144 |
|                           |                                 | 70        | 34  | 104 |
|                           |                                 | 58        | 56  | 114 |
|                           |                                 | 57        | 44  | 101 |
|                           |                                 | 56        | 38  | 94  |
|                           |                                 | 51        | 27  | 78  |
|                           |                                 | 51        | 71  | 122 |
|                           |                                 | 46        | 35  | 81  |
|                           |                                 | 41        | 20  | 61  |
|                           |                                 | 40        | 17  | 57  |
|                           |                                 | 37        | 37  | 74  |
|                           |                                 | 35        | 59  | 94  |
|                           |                                 | 33        | 9   | 42  |
|                           |                                 | 32        | 22  | 55  |
|                           |                                 | 28        | 57  | 85  |
|                           |                                 | 26        | 16  | 42  |
|                           |                                 | 25        | 49  | 74  |
|                           |                                 | 22        | 21  | 43  |
|                           |                                 | 21        | 47  | 68  |
|                           |                                 | 21        | 36  | 57  |
| 20                        | 10                              | 30        |     |     |
| 19                        | 56                              | 75        |     |     |
| 18                        | 67                              | 85        |     |     |
| 18                        | 16                              | 34        |     |     |
| 千長山岩福宮佐秋青茨栃福新北富愛宮長鹿山高     |                                 |           |     |     |
| 葉崎梨手島崎賀田森城木岡瀧道山媛城野島形知     |                                 |           |     |     |
| 海 児                       |                                 |           |     |     |
| 全国平均                      |                                 |           |     |     |
|                           |                                 | 27        | 30  | 57  |

(備考) 幼稚園幼児数の多い順とする。

など注目される。合計で少いものは、栃木(一六)茨城、北海道(夫々二一)青森(二三)などでこれらは幼児施設の普

及が遅れているところといえよう。

一人人に対する幼稚園および保育所の幼児数は夫々二七人三〇人でこれを全国幼児からみると、前述の年齢別人口表より推定すれば、全人口一人当り昭和二五年度幼児は約四一〇人であつたから、この中幼稚園に二七人保育所に三〇人、合計で幼児施設にはわずか五七人のみであり、又文部統計速報によると昭和二五年度小学校入学者中の幼稚園修了者は八・六%であるなど、幼児施設の普及は未だ充分でない事を物語つてゐる。

### 三、市區町村人口からみた幼稚園の分布

幼児施設は概して都市に多く、町村に少いという一応の予想がたてられるが、市町村夫々の諸条件はさておき、人口からみて、どの位の市もしくは町村に何施設の幼稚園があるか、又市部と町村部との相違等をこゝでみる事とする。但しこれは資料の都合上施設は昭和二三年度により、人口は同年八月の常住人口調査の結果によつて算出した。

#### (一) 町村部

全国の町村を人口によつて階級別とし、その各々の段階における幼稚園施設は第六表にみる通りで、総町村のうち幼稚園のある町村は五三・六%、その平均は一・一施設、三万以上の大町村をのぞき階級別には大きい町村ほど一町村平均施設数は増加はしているが、その増加はきわめて少く、即ち施

設のある町村の人口五千未満での一町村平均施設は一であるが一万以上一万五千未満でのそれは一・一、二万五千以上三万未満でも一・七にすぎない。こゝで三万以上の大きい町村であるが、この大町村は全国で三八を数えているが、幼稚園のあるのはこのうちわずか八町村のみで、その一町村平均数は五千以上一万未満及び一万以上一万五千未満の町村と同じ一・一施設である。これはその理由の一つとして三万以上の町村が市制を布き得る人口にありながらそのままに止つてゐる性格、即ち中心となる市街地、都市的業態人口の少いとい

第六表

| 施設のある各町村数に對する一町村平均施設数 | 施設のある各町村数に對する一町村平均施設数 |        | 施設のある各町村数に對する一町村平均施設数 |
|-----------------------|-----------------------|--------|-----------------------|
|                       | 町村数                   | 上欄の百分比 |                       |
| 一、〇〇〇未満               | 〇                     | 〇      | 〇                     |
| 一、〇〇〇以上 五、〇〇〇未満       | 一三二                   | 二・〇    | 一・〇                   |
| 五、〇〇〇以上一〇、〇〇〇         | 二二三                   | 八・〇    | 一・一                   |
| 一〇、〇〇〇以上一五、〇〇〇        | 九〇                    | 一七・五   | 一・一                   |
| 一五、〇〇〇以上二〇、〇〇〇        | 五四                    | 二七・八   | 一・二                   |
| 二〇、〇〇〇以上二五、〇〇〇        | 三五                    | 四一・七   | 一・三                   |
| 二五、〇〇〇以上三〇、〇〇〇        | 一八                    | 五六・三   | 一・七                   |
| 三〇、〇〇〇以上              | 八                     | 二一・一   | 一・四                   |
| 合計                    | 五五〇                   | 五三・六   | 一・一                   |

備考 全口で人口一〇〇〇未満の町村は一〇二を数えている。

り事情（地方自治法第八條、市の要件参照）を示し、従つて幼稚園の施設も普及してゐないと考えられる。

次に最小の一千未満の町村は全国で一〇二あるが、ここには全然幼稚園はないが、それ以上、即ち五千未満の町村は第六表の通りで全町村の二%にして幼稚園はなく、平均施設数は一である。このうち三千未満の町村における幼稚園施設の状況は、第七表の如くでここには四三施設を数えそのうち公立が三八を占めてゐる。表の備考によつて知られる通り岡山及び香川に園数が多く、四三のうち岡山に二三、香川に五である事は両県の小町村の実状は不明であるが、普及の一端がうかがえよう。又幼稚園施設のある最少人口の村は、人口一四四の岡山県上道郡金田村で、次は同じく岡山県邑久郡笠加村（一、三〇四）広島県豊田郡御手洗町（一、三五〇）であつた。

第七表

| 施設数 | 施設数 |    | 備考      |
|-----|-----|----|---------|
|     | 公立  | 私立 |         |
| 三   | 三   | 〇  | 内岡山二    |
| 一〇  | 一〇  | 〇  | 内岡山四香川二 |
| 二   | 二   | 〇  | 内岡山九香川二 |
| 一五  | 一五  | 〇  | 内岡山八香川一 |
| 一〇  | 一〇  | 〇  | 内岡山二    |
| 三八  | 三八  | 〇  | 香川五     |
| 合計  | 四三  | 五  |         |

(二) 市部

市部とは東京都内の区の地域と五大市（大阪、京都、名古屋、横浜、神戸）及びこれをのぞいた各市計二二二市をいふ。（第八表参照）

第八表

| 施設のある市の数           | 全町村数に對する市の百分比 | 一市平均施設数 | 施設のある市の数 |          |
|--------------------|---------------|---------|----------|----------|
|                    |               |         | 施設のある市の数 | 施設のある市の数 |
| 三〇、〇〇〇未満           | 二             | 一〇〇・一   | 一八〇      | 三〇、〇〇〇   |
| 三〇、〇〇〇以上五〇、〇〇〇未満   | 六二            | 七四・七    | 一〇〇      | 三〇、〇〇〇   |
| 五〇、〇〇〇以上一〇〇、〇〇〇未満  | 七四            | 八四・一    | 二        | 五〇、〇〇〇   |
| 一〇〇、〇〇〇以上一五〇、〇〇〇未満 | 一九            | 九〇・五    | 一        | 一〇〇、〇〇〇  |
| 一五〇、〇〇〇以上二〇〇、〇〇〇未満 | 九             | 六四・三    | 一        | 一五〇、〇〇〇  |
| 二〇〇、〇〇〇以上二五〇、〇〇〇未満 | 八             | 一〇〇・一   | 一        | 二〇〇、〇〇〇  |
| 二五〇、〇〇〇以上三〇〇、〇〇〇未満 | 四             | 一〇〇・一   | 一        | 二五〇、〇〇〇  |
| 三〇〇、〇〇〇以上          | 二             | 一〇〇・一   | 一        | 三〇〇、〇〇〇  |
| 計                  | 一八〇           | 八一・一    | 三        | 計        |

先ず都内区の地域と五大市をのぞく市は第八表によると、二二二市のうち一八〇市（八一・一％）には一市平均三・四の幼稚園があるが、市として相当した人口、諸条件をそなえずとも、幼児教育施設が一つも存しない市が約二〇％もあり市部にも充分でない事が知られる。人口階級別にみれば、市内に幼稚園が一園もないのは一五万以上二〇万未満の市に多く、施設のある市はこの段階の全市の六四・三％である。

一市平均施設数は二〇万以上二五万未満に最も多く一〇施設で、二五万以上の市ではこれより下回つて六・三ないし七である。

次に東京都内区の地域及び五大市であるが第九表によると施設数は東京に最も多く、次いで京都、大阪、神戸、名古屋

第九表

| 施設数    | 一施設当り人口 | 施設のある区の数 | 施設のある区の一区平均数 |
|--------|---------|----------|--------------|
| 東京 一四八 | 三〇、七八一  | 二〇(三三)   | 七・四          |
| 京都 五七  | 一八、二四八  | 七(七)     | 八・一          |
| 大阪 四一  | 四一、二二一  | 一八(二二)   | 二・三          |
| 神戸 二五  | 二五、七六九  | 七(七)     | 三・六          |
| 名古屋 一二 | 七六、三二〇  | 七(二二)    | 一・七          |
| 横浜 四   | 二一四、八三一 | 四(一〇)    | 一・〇          |
| 計 二八七  | 三三、八一五  | 六三(八一)   | 四・六          |

備考 カッコ内は区数

横浜の順である。一施設当り人口からこれを見ると、一施設当り一八、二四八人の割にある京都市が最も普及しており、次いで神戸、東京、大阪、名古屋、横浜で、横浜の一施設当り人口は京都の十二倍にも相当し、大都市のうち最も普及が遅れている。施設のある区及びその一区平均施設数等からも京都市は盛んで、全区に幼稚園があり、一区平均八・一施設と

第十表

| 人口階級別    | 施設のあま区に對する一區平均<br>の區數 | 上欄の百分比 | 施設數  |
|----------|-----------------------|--------|------|
|          |                       |        |      |
| 三〇、〇〇〇以上 | 七                     | 七七・八   | 一・三  |
| 五〇、〇〇〇〃  | 一八                    | 六四・三   | 二・八  |
| 一〇〇、〇〇〇〃 | 一四                    | 八二・四   | 四・三  |
| 一五〇、〇〇〇〃 | 一三                    | 八六・七   | 五・七  |
| 二〇〇、〇〇〇〃 | 七                     | 八七・五   | 八・〇  |
| 三〇〇、〇〇〇〃 | 二                     | 一〇〇・一  | 一六・六 |
| 計        | 六三                    | 七七・八   | 四・六  |

なつてゐる。

人口階級別にみた右の市及び区の施設の状況は第一〇表の如くである。一〇表によると、一區平均施設で三〇万以上の大きい区では、一六・六施設でこれはそれ以下の区に比し、又人口の増加と施設の増加からみて大きい数といえる。これを前述の五大市以外の市にみると三〇万以上の市の平均施設数は七であつて、市と区の差の大きいことが、注目される尙三〇万以上の区は東京都の大田区、世田ヶ谷区の二区である。

(三) 市部町村部の比較

| 施設數 | 町村部   |       | 施設百分比 |
|-----|-------|-------|-------|
|     | 市     | 町村部   |       |
| 實數  | 六六    | 四・〇%  | 三・四   |
| 百分比 | 四・二%  | 六二・〇% |       |
| 實數  | 六二    | 一八・八% | 三・六   |
| 百分比 | 五・〇%  | 五七・七% |       |
| 實數  | 一、五七  | 一〇〇・〃 | 三・七   |
| 百分比 | 一〇〇・〃 | 五・七%  |       |

| 施設百分比 | 町村部  |      | 施設百分比 |
|-------|------|------|-------|
|       | 市    | 町村部  |       |
| 國公立   | 四〇・三 | 三・四  | 三・四   |
| 私立    | 五九・八 | 六六・六 |       |
| 實數    | 三三・四 | 三・七  | 三・七   |
| 百分比   | 三三・四 | 五・七% |       |
| 實數    | 四八・三 | 三・七  | 三・七   |
| 百分比   | 四八・三 | 五・七% |       |

第一一表

第一二表

以上で町村、市、区の夫々の幼稚園施設の普及状況をみたが、これを町村部と都市部としてみると第一一表によれば町村部の園數は六二六、都市部は九〇一、前者四一%、後者五九%で都市にやゝ多い。総人口を町村と都市にみると、町村部には総人口の約六五・四%都市部三四・六%で都市部の約二倍弱の人口が町村にあることがしられ、町村においても人口一千未満の小村には施設が存しなかつた事。その他の諸事情によつて、施設をおくことが不可能に近いものもあるにしても、都市には町村に比してかなり普及してゐるといへよう。又設立者別では(第一二表参照)町村部には國公立が六三・六%、私立が三六・四%、都市部には之と殆んど逆に國公立三七・七%、私立六二・三%である。町村、市、都内全区と五大市にみると國公立はこの順に少く、私立はこの順に多くなつてゐる。かくのごとく都市に私立の多いことは、都市

においては施設に対する要望が多く、公立のみでなく私立の発達を促しているともいえるが、我が国において、私立学校が都市においてのみ成立ちうるという事情は幼稚園についても当つてゐることを示すものであらう。

## 結 語

一、幼稚園は昭和二三年より非常に増加し、指数で二三年一〇〇、二四年一一七、二五年一三八となつたが、このうち私立の増加は著るしく、二三年一〇〇、二四一二二、二五年一五四となつてゐる。

二、幼児数では昭和二五年には前年より四・二一人の減少をみ、施設の増加と相反しているが、これは全国的に幼児数が減少した結果と推定され、今後には激増をみると想像される。

三、幼稚園と保育所では、保育所が幼稚園に比して相当普及している府県が多く、特に高知、新潟、富山、福岡、愛媛、山口等にあつては、保育所が幼児教育機関として幼稚園と同様に考えられてゐると想像さるが、正規の幼児教育機関として認められてゐる幼稚園との關係を思うとき、ここには充分の考慮がはらわれねばならぬ問題があるらう。

四、人口からみた昭和二五年の幼児施設は、普及してゐるのは第一位に徳島で、幼稚園の一施設当り人口は七、六三九人（全国平均三九、六一九人）である。次いで兵庫、岡山、香川、京都、東京、福井等である。

幼児数では人口一万に対する幼稚園児は全国平均で二七人、保育所幼児は三〇人で、総人口からみて一人一人に対する総幼児（満四・五才）は約四一〇人あり、そのうち幼児施設にあるものが五七人のみであることは施設の不充足を示すものである。

五、昭和二三年度の都市部、町村部における幼稚園の分布状況は、都市部に五九％、町村部に四一％で、夫々の人口からみると、町村部はかなり普及がおくれている事がしられた。又設立者別では国公立は町村部に六三・六％、都市部に三七・七％であつて、私立が都市部に多い。これは幼児教育施設が町村部においては公的財源によらねば成立たぬことを示唆している。

六、私立幼稚園は昭和二五年度で総数二、一〇〇の五八・四％を占める。これを昭和一二年度に比べればやゝ私立の率が低くなつてゐるが、これは終戦後の特別の諸事情が生んだ結果があり、これによつてただちに公立が私立にとつて代つてゆく傾向にあると断するわけにはいかない。例えば二三年以来、施設の増加率は私立がずつと多くなつてゐる。なにはともあれ二五年も半数以上を私立が占めてゐること、施設の多い府県において、私立が東京八五％、大阪五三％、兵庫三〇％の数を示していることは、幼稚園の問題に関しては、小・中以上の私立学校とは別個に考えねばならぬことが知られる。

（以下五一頁餘白）



## 言葉に表われた幼児の情緒の一端

(第四回関東保育協議大会研究発表)

群馬大学教育学部附属幼稚園 鈴木正子

### 言葉の記録の動機と方法

園外保育はどちらの幼稚園にも欠くべからざる保育内容の一つであることは言うまでもありません。田圃へ野原へ五月六月の季節は私達を園外へと誘います。

新入園児もやつと馴れてぼつとした昨年の五月中旬のこと、私はしばらく新しく入った子供等にかまけて心をかけてやれなかつた年長組の子供と一緒に裏の田圃へ出かけました。

丁度麦畑の中を通りますと青い麦のかおりが私達を追いかけて来るようです。麦が風にゆれています、「お手々つないで」と口をつけて出る歌声麦の観察等に足を止めたり歩きま

す中にある一人の幼児が足をとめて申します。  
麦が、  
せんせい

今日は、  
今日は、  
い、い、  
してるね、

「先生麦が今日は今日はしてるね」

ふだんあまり話もしないこの子供がこんなことを言った、私はその時、「ほんとうにね、みなさんが来て下さったので麦さんよろこんでいるのでしよう」と申しましたが、内心ほんとうにうれしく今日の園外保育もこれだけで良かったと想つたくらいでした。

私はその日子子供達を帰えしてから早速ノートに今日の子供の言葉を記してみました。

幼児期は未分化な時代と申しますが、麦に對する自分との同位感、麦も自分も一つに感じてはばからぬ自由な心、自然への親愛感等幼児の性格を心にいきままでに表わしている。み



じかいこの言葉に完全にみせられてしまつたのです。

私はその時想いました。どうだろう、幼児期の特徴を知るためにも、又一人一人の幼児の気持を再認識するためにも、幼児の言葉を自然の中に記録して行つたら面白かるうと思つたのであります。忙しい忙しい保育者の毎日です。ノートと鉛筆をもつてそれを書き取つてゐるひまも無い毎日です。そこで私は感じた日、気づいた日に、子供等が帰つてから想ひ出して記すことに致したわけです。

たゞあの時こういうことを言つたのだつたがと、後になると記憶がうすれて真実とのずれが生じたり、大人の気持が交錯したりする危けんを十分注意しながら記録致しました。

以上は私が幼児の言葉を記録し始めた動機と方法でありませんが、こうしてまとめて見ますと今更の如く幼児の性格、その中に表われた情緒性というものはつきりとらえることが出来るのであります。

言葉に表われた 幼児性 情緒 性 V 説明

次に記録された言葉にどんな風にそれが表現されているか、二三の例を上げてみましょう。

先づ幼児の情緒面を申し上げる前に、幼児期の特徴である未分化性、アニミズム的なもの見方等について気のついた点を例をもつて説明致し度いと思ひます。

第一例と致しまして砂山を背景にして生れた言葉を考へて見度いと想ひます。時季は六月、前日の雨で湿度状況良ろし

くなつた砂場はその朝満員の盛況でありました。大シャベル、小さなシャベルの交わる中にたちまちにして大きな山が出来上つてしまいました。子供は赤城山だと言つてよるこびました。そして出来た出来たと言ひながら大きな山に足を掛けたのであります。

お山作ろう

赤城山だよ

できた できた

大きいね

登ろうよ

わあ

大きな足跡が

ついちやつたな

勿論砂山はくずれてしまいました。作つては登り作つては登り時を忘れて子供達は遊び続けたのであります。その砂場遊びの時の子供の綜合の聲がここに現われた言葉であります。この快適な言葉の中に現実と空想の世界の入りまじつた未分化な幼児らしい性格が見出されるわけです。幼児は砂山を實際の山として登ろうとしています。そして其処に何の不思議もないのであります。又始めに申し上げた麦の場合ですが、幼児は自分と同じものとして他を感じてゐるのであります。以上の言葉に表われて居ます様に、幼児は私達大人の解らない未分化な世界に住んでゐるものであること、その為幼児のものゝ受取り方というものがしばしばアニミズム的で

あるということを私は言葉から再認識し得たわけです。

さてこう言う幼児性を前ていとして次の情緒面の説明に入りたいと思いますが、幼児の世界が未分化なものである点から言つても、これ等の言葉を分せきして考えることは不自然であることは言うまでもありません。そのまゝで幼児らしい味を味わうべきであることは今更申すまでもありません。私はたとへ言葉に表現された比較的はつきりした好ましいむしろ情緒に近いような情緒の芽生えについて、私の感じた二つの面を語らせていたゞき度いと想うのであります。

では雨の日を背景にした言葉を例にあげましょう。

てるてる坊主

大きい坊主

小さい坊主作つたから

明日天気になるよ

ジョンが雨にぬれて

びしょぬれで

かあいそうだな

これは私の子供の場合であります。雨の室内遊びにあきた日曜日のことです。私は紙をせがまれて子供にあたまました。子供は大きい坊主、小さい坊主と節をつけながらてるてる坊主を二つ作りしました。やがて軒の物干ざおにそれをつるし、私をふり返つて安心した様に明日天気になるよと申します。その時二人して外の雨をながめていますと近所のジョンという犬が通りかゝりました。子供は雨によごれたそれをし

げしげとながめて居りましたが「ジョンが雨にぬれてびしょぬれでかあいそうだな」と申します。如何にも自分がぬれてもいる様な淋しい顔をして申します。私は「そうねえ、早くお家に帰るといいのにね」と犬にとも吾が子にともなく申しました。ふだんは独りでいばつている自分勝手な子供の性質に内心を傷ためていた私は、はからずも表われた吾が子のやさしい愛情のほとばしりといつたものを見つけて、よるこび早速記録致しました。

又他の子供の場合をもう一つ申し上げるならば卒業式も間近なある日

春になると

美代子

学校にゆくの

先生も一緒にゆこう

ほんとに

そうだといいなあ

ある日子子供が窓辺に立つている私の所に来てだまつて私の手につかまつたのです。そして「春になると、美代子、学校に行くの、先生も一緒に行こう」と申します。私は幼児から先に自分の気持を言われてはつとしながら「先生もみんなと一緒にほんといに行きたい」と申しました。すると「そうだといいなあ」と言いながら遊びの群の中に入つて行きました。私はやさしい子供の気持にあたまりながらこの言葉を記録したのであります。私はこの二つの言葉に幼児の愛情の小さ

い芽生えを見出すことが出来、心からうれしいと想いました。そしてもつともつと他の、私のうつかりして気づかないであろう幼児の沢山の芽生えについて、急に心配になりはじめたのであります。

次に方向を変え、ばつた取りを背景にした言葉について考えてみましょう。

夏休みもすんで第二保育期が始まりますと急に虫取りが盛んになります。

ばつただよ

ばつただよ

おれの眼の所

通つたよ

きーち きーち

鳴いて

あの日のこと裏の鼠で虫取りの相談をしておる子供達とおりますと、子供の耳をかすめてばつたが足音におどろいてとんだのであります。その子供は、はつとして息をのんで私を見ました。「ばつただよ ばつただよ おれの眼の所通つたよ きーち きーち鳴いて」

子供は何とおどろいていたでしょう、私もびつくりした顔にうつられてだまつてしばらく立つて居りました。ここで幼児は何も知らないから、おどろくのだ等と申しますまい、私は幼児とは何と真剣なおどろき方をするのかしらと感心致しました。

同じくとんぼ取り、又蛙取りにしても幼児には一つ一つがよるこびであり愉快であり、幼児というものは生々しい感激性にあふれているものであることを発見したのであります。

眼まわせ

眼まわせ

ぐるぐるぐる

あ、にげた

あつちの木

こんどは

そうつとゆこ

蛙が生れたよ

葉っぱのかけで

眼あけている

なけないんだよ

これを感じ性と名づけるならば幼児とは何と単純ではあるが、新鮮な感受性をもつているかと言うことを発見したのであります。そして若し大きくなつてもこの卒直なおどろき、喜びをもつて他を素直に感受出来る事が出来たなら、どんなにか人間の生活が豊かになるかと私は思い及ばせられたのであります。以上私はここで殊に愛情と感受性ととの二つの面について語らせていたゞきました、たしかにこの二つの面を考えるだけでも、幼児の情緒の世界が日毎に内に外へと複雑化し成長しつゝあると言うことが解かるのであります。それが幼く単純なものであるだけに、私達大人の指導如何によつては、情操と言われる様なより豊かなものに、より高いものになり得る可能性も又大きいのではないかと想います。

言葉からの情緒性の指導

さて幼児の言葉の記録により幼児期の特徴、情緒生活の一

端を再認識し得たわけでありませんが、それならばどうしたらその情緒性をゆがめずに伸して行つてやるかという問題が、最後に残るわけです。も少し大きくなつたなら表現された言葉をもう一度文字を通しあたえることも良いでしょう。又幼児においては、リズム、自由画等に誘導してみるのも面白いことも考えられます。しかし、それよりも先に達私がしなければならぬこと、それは幼児のその時々々の気持になつてやることではないでしょうか。なぜならば言葉を見て知つたのですが、幼児の情緒が如何に瞬間的なものであるかと言ふことであります。記したからこそ残つているのでありますが、この言葉を何時言つたかおぼえている子供があるでしょう。それだけに私はその大切さを身にしみて感じるのではありません。後ではもう間に合わないのです。その時々々に幼児のうつたえる言葉に大人の心が鈍である時、折角のよい情緒の芽生えも、しぼんでしまふでしょう。

反対に大人が先づそれに順応し、共感してやる事が出来たなら、その一言はどんなに幼児を力づけ自信づけることでしょう。

幼児の小さい愛情が大きな愛情へ、幼児の単純な感受性が素直なものゝ見方の出来る豊かな人間性又美的情操に富んだ人間性へと成長して行くのであります。

私達大人は幼児に豊かな環境をあたえてやると同時に、是非幼児からの言葉に丁寧に耳をかたむけてやりたいものです。

人間の情緒の大半が幼児期に形づくられるとさえ言われています。先づ何よりも先に幼児の良い理解者となり度いものであります。

### 言葉に現われた幼児の情緒の一端

第四関東保育協議大会研究発表要項

群馬大学学芸学部附属幼稚園 鈴木正子

#### 一、幼児の言葉の記録の動機と方法

#### 一、言葉に表われた幼児性と情緒の一端

幼児性……未分化・アニミズム

例Ⅱ 砂山・舟遊びを背景にした言葉

情緒……愛情・感受性

例Ⅲ 雨の日・春が来ると・ばつた・とんぼ・かえるを

背景にした言葉

#### 一、幼児の言葉からの好ましい情緒性の指導について

幼児の情緒は瞬間にして消え去るものであり、言葉も又はかなく無意識の中に発せられるものが多い、私達の細心の注意をもつてその時々々の幼児の言葉に、気持に順応し共感してやることが好ましい幼児の情緒を育てる上の根本問題である。

#### 一、幼児の言葉の抜萃（年令満五—六歳年長クラス園児のもの）

せんせい  
麦がこんにちわ  
こんにちわ  
してるね

生れた環境 園外保育  
季節 五月中旬

お山作るう  
赤城山だよ  
できた できた  
大きいね  
登ろうよ  
わあ大きな足跡が  
ついちやつたな

生れた環境 砂遊び  
季節 六月上旬

てるてる坊主  
大きい坊主  
小さい坊主作つたから  
明日天気になるよ  
シヨンが雨にぬれて  
びしょぬれで  
かあいそうだな

生れた環境 雨の日曜日  
窓の外の風景、出来ごと  
季節 四月中旬

春になると  
美代子  
学校に行くの

先生も一緒に行こう  
ほんとに  
そうだといいなあ

生れた環境 保育室の窓  
辺・日向卒業もま近い日  
季節 三月中旬

ばつただよ  
ばつただよ  
おれの眼のところ  
通つたよ  
きーち きーち  
ないて

生れた環境 蟲・露の多  
い朝・蟲取りの子供・四  
人位  
季節 九月

眼まわせ  
眼まわせ  
ぐるぐるぐる  
あ、逃げた  
あつちの木  
今度はそつとゆこ

生れた環境 幼稚園の裏  
庭・とんぼとり  
季節 九月  
僕の舟がいちよ  
やあ休んでる

早く行けよ  
行つてくれよ  
あ、流れたよ  
僕のとどつちが早い  
用意 ドン!

生れた環境 舟遊び  
舟は木の葉、棒き板き  
れ等・川に沿つて登園す  
る道  
季節 四月下旬

いらつしやいませ  
さあどうぞ  
何も無いですけれど  
これおさしみです  
これおすしです  
いただきます  
おいしいですよ

生れた環境 ままごと遊  
つばき・藤の花等・こち  
そうの材料になる  
季節 五月上旬

僕 運転手になるの  
先生のせてあげようね  
チンゴウ  
チンゴウ

楽しんでよう

生れた環境  
保育室・話合いの時・何  
になりたいの発表  
季節 二月下旬

煙の兵隊あつちゆけ  
煙の兵隊あつちゆけ  
どんとん上る  
天まで上がる  
真赤だね  
あつたかいね

生れた環境 たき火  
煙の兵隊は童話からの速  
想・丸くなつて火をかこ  
んでいる子供  
季節 十二月下旬

風のある日は  
だれか  
後から  
押しして来るようだ

生れた環境 風の日  
登園の道  
季節 五月上旬

蛙が生れたよ  
葉っぱのかげで

眼あけている  
鳴けないんだよ

生れた環境  
庭の垣根に、小さい青が  
えるが止つていた  
季節 六月中旬

きれいよ  
きれいよ  
お花のよう  
どうしてじきに  
消えてしまうのでしょ

生れた環境  
花火大会の翌日・保育室  
季節 十月中旬

十五夜つて  
お月様だよ  
何だと思つたら  
お月様さ  
僕わかっちゃうだよ

生れた環境  
十五夜の次の日、おすべ  
りの上の言葉  
季節 十月上旬



## 婦人と子ども（幼児の教育の前身） 創刊當時 のこどもと其頃の幼稚園の状況に就いて

東 基 吉

五十年前というとは随分遠い昔です。然し静に當時を追想しますと、共に仕事をしたり、勉強したりした今は亡き恩師や先輩や同僚達の風貌が、まぎ／＼と眼前に浮んで来るし、自分の成した事や、遭遇した事柄なども次々に浮び上つて来ます。今日になつて見れば何でもない分り切つた常識的な事柄が、其当時は非常に重大なことのよう考えられたりなどして一人で微笑さへもしないでは居られないようなこともあります。

私がお茶の水の女子高等師範学校に奉職したのは明治三十三年の四月で、其前年高等師範学校を卒業、若手県師範学校附属小学校主事に就任して居たのを、恩師黒田定治先生（女高師教授）の推薦で来つたのでした。始め先生のお話では、附属幼稚園に勤務するのだとのことでしたので、当時幼稚園教育のことなどには全く無知であつた私は、ちよつとガツカ

りました。が、兎も角幼稚園主事の中村五六氏に会つて見なさいといふので、先生の紹介で本郷真砂町の中村氏宅を尋ねて面会しました際

「実は僕幼稚園のことは何も知らないですが」

と言つた所、中村さんは「いゝさ、日本中に誰だつて知つたものはありませんからね」

と言つて呉れたので、夫では幼稚園のイロハから勉強してかゝろうと決心して、三十三年の四月に女子高等師範学校助教に任ず「幼稚園批評係り」を命ずという辞令を受けたのでした。

当時の幼稚園の組織は、満三年からの幼児を入園させて三組（一組四十人）職員は中村主事の下に保母が清水鶴（後下田義天類氏に嫁した）氏を筆頭に神門とも、稲石やす、林ふ

み、松村久の五人、他に分室というのがあつて、これは三年から六年までの幼児を一組にした下層階級の為のもので、北野晴という保姆がこれを担任して居ました。其後本園の方は神門稲石の二人が去つて其後任に雨森劍、武井綱枝の二氏が来任しました。

夫から附属幼稚園には保母養成の機関があつて、保母練習科と名づけて居ました。高等女学校の卒業生を入学させ一年で卒業、保母の免状を得させたもので、私の赴任する前から出来て居て、其後何回か卒業生を出しましたが、大低一回の卒業生は十人以内で、皆地方幼稚園の主任保母として、招聘されて行きましたが、卒業生の中には相当確りした人も居て地方の幼稚園でよく働いて居ました。

何故私が此処に採用されたかという、これは後から分つたことでしたが、当時学校内での附属幼稚園の評判が甚だかんなばしく無かつたようで、つまり幼児教育研究機関として一向何もして居ないじやないかというようなことが、時々言われたように思われた。尤も附属高等女学校だつて、附属小学校だつて格別女子教育や児童教育上の研究など發表されたとも思えなかつたのですが（附属高等女学校主事は篠田利英氏附属小学校の方は高浦丈夫氏）何に致せ、お隣りの高等師範の附属小学校（神田一つ橋所在）では樋口勘次郎氏などが音頭を取つて新しい教育主義だとか教授方法などを盛に機関雑誌に發表したり、所々で講演したりして居ますし一方此頃は又児童研究ということが盛んで、高島平三郎氏が雑誌

「児童研究」を出して居り、殆んど全国的に児童研究の熱が昂まつて来て居ました。そうした形勢の下に在つて、女高師の附属は何も發表しないし、自然影が淡いように見えたのです。尤も幼稚園が特に評判がかんばしくなかつたように思われたのは、一つは中村主事の性格からも来て居たようです。

中村さんは実に立派な人格者で、誰にも親切で、腹にわだかまりの無い、竹を割つたような方で、私はいつも尊敬と親しみを感じて居たし部下の保母達にも尊敬されて居ましたが、一面何方かという少し社交性に乏しいようでよく人を皮肉つたり、いやがらせを言つたりします。そこから人に誤解されたり反感を持たれたりする、夫が自然中村さんの主宰する幼稚園の方にも響いて来たように思われます。そこで、幼稚園が一向何もやらんじやないかといわれるのに対して中村さんは「部下の保母達は皆女で、日々保育の仕事に忙殺されて居るのだ、研究などやる暇はありやしない、研究をやれというなら我が輩の相棒に一人確りした男を入れて貰いたい」というようなことを言い出して、結局この提案がいれられて其結果私が採用されることになつたのらしい。中村さんのこの提案を強く支持されたのは、学校職員の中でも私の恩師黒田教授であつたらうと思われます。

私が赴任した頃、附属幼稚園で、保育終了後附属小学校や高等女学校、中学校へ転入した児童の学業成績を調査して其統計表を造つて居まして、私が来てから其仕事を私が引き受けてやることになりました。これは他から入学した児童の成

續と比較して、幼稚園保育の効果を実証しようという計画であつたようです。所が幼稚園出身の見童が悉く、他の見童に比べて学業成績が優秀であるべき道理がないと思つたから、私がやつて見て二三年経てからやめて仕舞いました。がこれも、幼稚園が何もしないと言われる夫の対策の一つであつたようです。

これは学校内部のことですが、夫にも増して甚だ厄介千萬なことは、一般幼稚園に対する世間の批評で、これが又多く教育者から出たものであります。当時私の尊敬して居た一人の知名の教育者など、直接私に向つて幼稚園不必要論から有害論までも持ちかけて来ます。其当時の不必要論というのは下層階級の家庭に取つては、幼稚園は要るかも知れぬが、よい家庭殊に母親が教育的意見を持つて子供を育て、行く家庭に取つては不必要である。殊に三歳から学齢までの幼児は母の膝下で育てるのが自然なのであるといふので、この議論は西洋でも相当あつたようです。有害論は主として保育の方法から来て居るのであります。前に挙げたバルンハム氏の論評の中にも若干見えて居まして、これは相当程度御尤もな議論で、私が始終考へた点もこゝに在つたのです。内憂外患とはまさに此頃の附属幼稚園の状態であつたでしょう。

こんな状勢の時、とも角私は附属幼稚園職員室の一隅に私の席につき、夫から毎日保母諸君の保育見学、教生諸氏の保育練習參觀に日を消しました。保育事項は遊嬉(遊戯の戲はいけないという中村さんの意見で嬉という字を用いて居た)唱

歌、談話、手技の四で、各々三十分ずつに時間を配当して、各組時間表を作つて居ました。

当時幼稚園に関する日本の書物は文部省から出した(確か和本三冊本)ものと中村さんの幼稚園摘葉(一冊本)夫に竹早町の女子師範学校長であつた林吾一氏の一冊本だけで、何れも米国のものゝ翻譯のようでした。其他に職員室に在つた書物は全部アメリカ版のもの許り、夫に雑誌はこれも米国出版の Kindergarten Review と Kindergarten magazin の二種が毎月来しました。夫で毎日そんな書物や雑誌を読破して、幼稚園に関する知識を収得することに努めました。フレイベル氏の「人間教育」や「幼稚園教育」という書物もこの頃始めて読みましたが、丁度育成会の石川栄司氏が、教育学書解説護書を出版するからというので、私がフレイベル氏の「人間教育」を解説したのもこの頃でした。

私は当時流行の見童教育にはさつぱり興味を感じて居ませんでした。一度流行につれて「見童研究会」(校庭に大きな藤棚があつたので、夫に因んで始めに「藤蔭見童研究会」と名つけた)というものを職員五六人で造つて見ましたが、誰も関心を持たなかつたものと見え其儘立ち消えて仕舞いました。見童研究などというよりは私の目的は近代科学に基礎を置く全教育体系の最初の一環として幼稚園研究と其改善とに在つたのでしたが、米国から取つたどの書物を見ても、前記の雑誌を覗いて見ても、どれもどれも皆一律にフレイベリアン、ドクトリンを祖述演繹したものの許りで一向参考になるも



のがないのに失望したのでした。然し其頃の保育の方法に付いて私の最初に気付いたものは所謂手技ですが、其取り扱ひ方が頗る神秘的で一才外部の人には分り兼ねるやり方でした。手技というのは所謂恩物と作業 Gifts and occupation で、これはフレイベル氏の哲學的構想から割り出して作られた玩具で、御承知のように積木と小板片と箸（真鍮の細い棒）と豆かきしやごの四種で、立体から体の一部の面（板、面の一部の線（箸）線の一部の点（豆））という風に全体から部分に、具体から抽象にという風に作られて居ます。そしてこの四種の恩物は別々に取り扱われねばならぬのであつて、決して混ぜて使わしてはいけません。板は板で箸は箸で豆は豆と夫れ／＼獨立して平面上に排列させる。板や箸を立体的に例えば板を擧にしたり箸を旗の棒にしたりしてはいけません。作業の方は反対に点、線面、体といふ風に部分から全体に、抽象から具体にといふ風に組み立てられて居る。フレイベル氏はこれに依つて幼児に、この全体から部分に、具体から抽象にといふ天地間の自然の法則を全得させようとしたのであるということです。フレイベル氏の恩物に関する其他の理論の全体系を、当時の保母達が、皆理解して居たとは思えません、何処の幼稚園でもこのフレイベル式の取り扱ひ方を金科玉条として忠実に守つて居たようです。神戸にエー、エル、ハウという米国の女性の経営して居る幼稚園があつて、私は行つたことは無かつたが、此女史などはフレイベル主義の忠実な実行者であつたやうで、フレイベル氏の「母

の遊戯」という本を訳して出版されて居ました。

御承知の通り、幼稚園は一八三七年フレイベル氏がブランケンブルグに創立したものでしたが、同一年プロシヤ政府から、フレイベル式幼稚園の設立が禁止され、其翌五二年にフレイベル氏は瞑目したのでしたが、夫にも拘わらず一八五四年以来全歐羅巴諸國に幼稚園の普及發達を來したのは全くマールホルツビニューロー夫人が、殆んどフレイベル氏の教育意見に宗教的感銘と熱情とを持つて、各國に遊説した結果だといわれて居ますが、我が国幼稚園関係者で、当時フレイベル氏の「人間教育」や「幼稚園教育」(大分難解の書物です)を讀破したり感銘したりする人は一人もなかつたやうです。が、幼稚園が他の教育体系から離れ近世科学を無視したやうな格恰で、米國あたりでもやつて居たのは、フレイベリアン、ドクトリンに対するこの宗教的な熱情と感銘から來た結果だと私は考へて居ました。私はこの恩物の取り扱ひ方に付いて、意見を出して見たことも時々あつたが、「どうも旧慣墨守の力の強い保母さん達は一向顧みようとほしませでした。若い保母さんの中には私の意見に賛成してくれる人もあつたやうだが、年季をかけた古い保母さん達は遠慮して口を出さない。

丁度其頃近着の Kindergarten Review にバルンハムという人の幼稚園保育法に付いての論文が出たのを讀んで大に参考になつたし、又イギリスの心理学会から發行せられた Psychological Seminary という雑誌に一會員の發表した幼

稚園改造論 Reconstruction of Kindergarten という相当長い論文は綿密な調査や統計に依つて現在の保育法の非教育的な点を指摘して居て、私の断片的な意見に科学的根拠を与えてくれた気がしたのでした。

次に幼児に歌はせる唱歌だつたが、これは極めて古典的なもので、吾々にさへ分り兼ねるような歌詞を古いメロディーで歌はせる。一例を挙げると

民草のさかゆる時と 苗代に

水せき入れてみしめなば ゆたに引きはえ

八束穂のたりほの稲の 時あらむ

と云つた類で、この歌曲に手をつけて踊らせるのである。子供は歌詞が判るうが判るまいが又メロディーが多少六ヶ敷ても、歌わせれば喜んで歌うものだが、教育的に考えれば歌詞も曲も子供らしい子供によく判るものにしたというのが私の考えで、時々妻（東京音楽学校卒業東京府立第一高等女学校教員）と相談して、簡単な童謡を作つて職員会議に持ち出したのでしたが、何とか乎とか批評されて結局採用されな

い。所が当時楽界の麒麟児と呼ばれた滝廉太郎氏（妻よりは二年後の音楽学校卒業）が拙宅にやつて来て「幼稚園で唱わせ

る唱歌を作らうじやありませんか、奥さんが歌詞を作つてくれれば自分が作曲するから」という話で、とうとう夫が纏つて「幼稚園唱歌」という名で共益商社から出版されたのが明治三十四年で、この本の中の一、二は他の人の作もあるが大

部分は妻の作歌で、鳩ぼつぼだのお正月だのといふ唱歌は、今以て唱われて放送されたりしています。とも角、これで子供らしい唱歌が出来た。麻布の何処だつたかに、矢張りアメリカの女の人のやつて居た幼稚園があつて、いつか參觀した時、六ヶ敷い讚美歌を唱わして居たから「もう少しやさしい子供らしい唱歌を唱わしたら」と一寸不用意に言つて仕舞つた所其婦人が「そんなのがありますか、作つて下さい」と反撃されて閉口したことがありました。然しこれは附属幼稚園ではあまり歓迎されなかつたようでした。一つは矢張り古い保母さん達が、昔の儘のものを墨守する傾向が強かつたこと、もう一つは新入りの私が事毎に新しい意見を持ち出すのに対する反感からでもあつたからかも知れません。けれどもこの唱歌の出来た当時、二葉幼稚園を経営して居られた野口幽香女士……この幼稚園は月謝といつて徴收しないで、幼児が登園すると其日に二錢づゝ持つてこさせるといふ下層階級の家庭に対する思いやりの深い方法を取つて居ました……や、女高師の音楽教師であつた吉田信太氏などは、丸で天来の福音のように喜んで賞讃してくれました。

伊沢修二先生が丁度隣りの高等師範の校長であつたので、或日婦人と子どもの往訪記者として先生を訪ねて、先生が女高師時代の幼稚園のことを伺つて見ました折り、其お話の一節に次のようなことがありました。

「何しる附属幼稚園が出来たのは明治九年で其頃は何も彼

も分らずにやつて居たのだね、唱歌などもてんで分らぬ六ヶしいもの許りだつた。其処へお雇い教師のメーソンがヴイオリンを持つてやつて来て、ちようくを弾いてくれた所がさあ子供らは大喜びで、ワアツと、メーソンの膝に集まつて来たものでした。」

この時始めて、ちようくちようく菜の葉にとまれの歌詞は伊沢先生の作歌であつたことを知りました。

夫から幼児に聞かせる談話ですが、これは庶物の話と人事の話とに分けて居ました、庶物の話というのは蝶々や蜂や蛙などの動物とか植物に関するお話で、子供の理知的知識を啓発するのが目的です。人事の話は所謂童話ですが、さて困つたことには庶物に関する話の材料として蜂や蝶々の舶来の立派な掛図はありましたが、童話の方には夫がない許りか、童話其のものさへ、小波さんが博文館から日本昔話：桃太郎やかちく山などを出して居られる丈であつたので、一向見当らない、夫に今日では子供の絵本絵雑誌などが何処の書店にも汎濫して居るのですが当時そんなものはさつぱり見ることが出来ないのです。そこで私はグリムやアンデルセン其他日本橋の丸善に行つて西洋の童話の本をいろく探し出して、適當なものを片端から翻譯したり翻案したりしたものです。

名前は忘れたが其頃私に「絵ばなし」という子供相手の色刷りの絵の小冊子を出したいから編集してくれぬかと云つた

人がありましたので、私は喜んで承知して、或る女学校の絵の先生を頼んで絵の方を引き受けて貰いました、そして何号かまで出しましたが、一つは私の編輯方法もまづかつたのかも知れませんが、五六号出してやめになりました。其時私の思つたことは、どうも日本の絵かきさんは動物の絵が下手だし、子供の絵もまづいということでした。子供相手の西洋の動物の絵を見ると、人間的表情を巧に猫や犬や山羊などに写して居て、夫等の動物が丸で人間のように笑つたり泣いたり話したりして居るかのように描かれて居ますが、日本の絵かきさんには夫が出来ない、夫に子供の顔や表情が旨く描き出されません、夫で折角期待したこの絵雑誌もあまり部数が出なかつたので短日月で潰れて仕舞つたのでした。

次に遊嬉ですが、これは共同遊嬉と自由遊嬉とに分けて居ました。前者は楽器に合わせたり唱歌しながら行進したり環になつたりして遊ぶもの、後者は庭で自由に砂遊や鬼ごつこや綱引などして遊ぶのです。この方の仕事には私の手はまだ届きませんでした。

が、とも角幼稚園の保育方法や保育事項などに付き改善に就いての幾らか纏まつた意見が出来ましたので、何日の発行でしたか、神田小川町の同文館発行の雑誌「教育学術界」に発表しました。当時東京市内小学校教育界の大御所を以て自ら任じて居た多田房之輔氏（氏は神田で幼稚園を経営して居り、又保母養成所を設けたり、東京府教育会開設の保母伝習所の所長をしたりして相当幼稚園には功勞のあつた人で日本

の小学教師という雑誌を出して居ましたが、其文を読んではあ、これはあなたの幼稚園卒業論文ですね」と云われたことがありました。

前に記した如く、幼稚園に関する日本文の書物が米国本の簡単な翻訳書が二三ある丈けでしたから、明治三十四年「幼稚園保育法」を著述して日本橋の目黒書店から出版し次いで師範学校女生徒の教科用書として保育法教科書を著述して矢張り同書店から出版しました。明治四十年に同文館から教育大辞書の出版がありまして、其中の幼稚園に関する一切の項目を私が担当して記述しました。明治九年始めて附属幼稚園が創設（尤も京都市では其以前に設立されて居たという話です）されてから、こゝに始めて翻訳に依らない日本文の幼稚園に関する著述が出来たのであつて、私は自から私に満足を感じて居るのであります。

其時分のことでしたと思ひますが、本郷竜岡町の私の寓居に岸部福雄君が尋ねて来ての話に、

「大阪では此頃東式手技研究とか云つて保母さん達がしきりにやつて居る相ですよ」

といわれたので「へえ」と云つた切り何のことか分らなかつたのでしたが、其前の年が前々年かの明治三十七年の夏大阪の愛珠幼稚園での、三市連合保育会（大阪、神戸、京都の三市、会長は大阪府女子師範学校長大村芳樹氏）主催の保育法講習会に出席して私が講演した手技の取り扱い方に付いて保母さん達が引き続き研究して居るのだなと判つて、自分の話

の反響が相当にあつたことに愉快を感じたのでした。

因みに記しますが愛珠幼稚園は大阪でも有名なもので、木造ではあるが工費八万円（現在の金に換算すると約一千万円以上でしょう）と云うので、東京でも流石は大阪だなと呼びものになつて居ました、私が講演に行つた時、其幼稚園の肝入り役は塩野吉兵衛といつた方でした。

× × ×

正しい幼稚園教育思想を成るべく早く一般に普及させたい念願から、いろ／＼雑誌に執筆したり著書を書いたりしたのですが、「育成会」から発行する「教育実験界」という雑誌記者に渡辺隈川という人があり、其人が私の話したリーベンシュタエンに於けるフレイベル氏とマーレンホルツビュロー夫人との会見記事（Reminiscence of Loebel の中の一節）を絵にして水彩画の大家渡辺審也氏に描かせ実験界に二頁大の口絵にして付けたのなども、今では嬉しかつた一つの思い出です。

然し、所々で講演したり著述をしたり余所の雑誌に執筆したりして居る丈けではこの念願は達せられません。自分の手に研究なり意見なりの発表機関を持つて居なければなりません。其処で考え付いたのは当時存在して居たフレイベル会：これはいつ創立されたのか知りませぬが、私が来つた頃毎年一回總會を開いて会長高嶺秀夫先生（女高師校長）の開会の辞や保母さん達の研究発表などがあつたようです。…の機関雑誌を発行することでした。所が雑誌発行に付いては先ず金

が費るがフレイベル会には無論一文だつて金が無い。それでこれは本屋にやらせるより他に途がなかつた、幸い、日本橋に金昌堂という書店があつて、其店の主人が自分の出版書籍の広告機関として雑誌を発行したいと思つて居た所であつたので、其主人と話し合つて其処から出版して貰うことに話を決めた。そこで私は明治三十四年のフレイベル会の総会にこの機関雑誌発行の案を提出しました。会費月十錢で毎月雑誌一部づゝ配布されるわけで別に会員の負担になる訳でもなし又会の金(無論無いのではあるが)を消費する訳でもないのだから、この提案は異議なく可決されました。

そこで雑誌の名を何とつけるかという段になつて中村さん、盲啞学校長の小西信八先生、黒田先生、多田房之輔氏などを幼稚園に集まつて貰つて相談しました。最初の私の考えでは幼稚園の機関雑誌だから純然たる保育育専門の雑誌にしたいのでありましたが、夫では一般に売れないから書店では承知してくれません。可成一般向にして家庭でも教育者の間ででも読まれるものにしなければならぬということになつて、其処で雑認の名前も「婦人と子ども」ということに決めたのでした。これはフレイベル氏が「子供をよくするには子供の教育と共に女子殊に母の教育が大事である」といつて女子教育を重んじたという所から、この名前を付けたものであります。

夫から雑誌発行の条件は次のようでした  
1. 編集一切は私が担当する。

2. 紙数は一部菊版八十頁とし定価は十錢とする。

3. 発行部数の中三百部は書店からフレイベル会へ納付する。

これに對し会からは実費一部五錢として三百部代を仕払う(當時フレイベル会員は百五十名か精々二百名位であつた)と思ひますが、会から夫れ夫れ関係者や知名の人達に寄贈しなければなりませんから三百部を納めて貰うことにしたのです。

4. 残りの部数は書店で発売し売れ高に依じて印税を会に納める。会はこれを寄稿者への原稿料を支払い、残つた分は会の収入にする。広告料は書店の収入とし、会の広告料は無料とする。

まあ大体こんな所でないよ、「婦人と子ども」が生れ出ることになりましたが、こゝで面白かつたことは雑誌の表紙の問題です。名前の文字は高嶺会長に揮毫を願うことにし、表紙の意匠は荒木十畝(学校の絵の先生)氏に頼むことにしまして、さて出来上つた。所が金昌堂の主人がこれを見て苦い顔をして首をかしげる「どうもこれでは絵も字も洩すぎて一般向がしません」と云います、実は私もさう思つたのです。十畝氏はグリーンの色彩論など持ち出して緑色の地に黄色のは、その蔓と葉とを模様化し下の方に白ぬきに撫子をあしらつて、夫で母と子とを表徴してゐるのですが、何分淡くつて地味でパツとしないです。夫に会長は達筆なのですが、惜しいことには雑誌の表題の文字として素人向きがしません。私も弱りましたが、今更書き直してくれなどは無論云えませ

し、まあ〜と云つて金昌堂を承知させて仕舞つたのでした。

そこでいよ〜「婦人と子ども」創刊号の編集に取りかかつたのでしたが、何分私に取つては始めての仕事であり、今日でこそいろ〜各方面の雑誌が花園に百花の咲き乱れたように店頭に広がつて居ますが、其頃は子供の雑誌では確か博文館から出して居たと思う小国民とか、同じく婦人雑誌では「女学世界」、石川正作氏の店から出して居た「女子の友」、夫にもう一つ何処か〜ら出して居た「明治の家庭」位のもので誠に寥々たるものでした。其処へこの道で全く無経験な私が、一人でやるやうなものですから、今から考えると一寸無鉄砲のようでした。が、とも角やらねばならぬ。一般向きとは云つても「女学世界」や「女子の友」など〜違つて、何処までもフレイベル会の機関雑誌として、幼稚園の研究改良の意見の発表、婦人と子どもの教育を主眼とした特色を持たねばならぬという考えから、始めの幾頁かを子供の領分とし、其処には私が丸善からあさり出した洋書から得た短篇の童話を四号活字でのせ、其他子供らしい記事に何頁かを割きました。そして会の記事や幼稚園教育に関する一切の事項は全部私が執筆し、母親欄の記事は専ら保母の林、松村両女史に依頼して書いて貰い趣味を主とした雑録欄は私の他に一、二の高師の学生に書かせ其他は文苑欄と共に一般の寄書に待つことにしたのですが、此方から頼んで書いて貰うものには原稿

料を出さねばならぬ。其原稿料は凡そ一頁四十銭に決めて居ましたが、これが中に急届で、時には粗品で間に合わせることもありました。今日文壇で名を知られて居る野口雨情氏は当時まだ早稲田の学生であつて時々文苑欄に作詩を寄稿してくれましたが、学生とはいへ、中々立派な作品で、他の寄稿の文は大低手を入れたり没にしなければならぬのに、雨情氏の作品にはいつも〜感歎させられたものでした。嘗て原稿料の代りにビール―ダースを届けたことがありますが、其後、今から二十幾年前、或雑誌者が知名の作家達に、最初に得た原稿料を聞いたことがありました時、野口氏は「婦人と子ども」に投稿して私からビール―ダースを贈つて貰つたことを云つて、これが自分の得た最初の原稿料といえるであらうなとゞ話して居たことがあつたようです。

夫に一つ編集上で困つたことは、雑誌の挿絵でした。一人二人知り合の画家は挿絵など描かないし、已むなく婦人の絵かきさんを紹介して貰つて、子供欄に描いて貰つたのでしたが、それがどうも私の気に入らない。然し発行期日が迫つたので、已むなく其儘挿入して原稿と一纏めに活版所に送りました。活版屋は神田橋の近くに在つた熊田活版所でした。

かくしてとに角幼稚園教育の発表機関が出来て、明治三十四年やつと其創刊号が発行されたのでした。創刊号ではあり、女高師附属幼稚園からの発行ですから、内容も相当豊富にし、装いも華かにして出發させたかつたのですが、其方に経験の無い私ではあり、実費一部五銭といつた貧弱な支出で

は、口絵の写真版一枚ですら附け兼ねるのでした。夫で漸く発行された第一巻第一号は、私自身が見ましても、如何にも田舎臭くつて垢抜けのしないものでしたが、夫でも「あゝよく出来た」などゝお世辞を云つてくれる人も多かつたが、私自身としては内心甚だ物足りなくうら恥かしくさへあつたのでした。

其中号を重ねるに従つて、漸やく体裁も整つて来るし、雑誌の少かつた時分のことゝて、隅から隅まで読んでくれる人も多かつたし、家庭でも相当喜ばれて居たようでした。所でこの雑誌は保証金の納めて居ないものでしたので、何号と何号の発行の時でしたか、二度ばかり警視庁から呼び出しを受けて、其中の記事に付いて厳しいお叱りを受けました。其記事の一つは、確か松村久さんの書かれた浅草の「子供を借りて来て物貰いをする乞食」のことであつて、成る程これは學術には關係がない、見方に依つては警察の不取締を皮肉つたようにも取れないこともないから警察の恐るのも無理はなかつたでしょう。然しこんな所で争つて向うの心証を害するのは、結局損だと思つたから音なしに「今後注意します」と云つて、二度とも引き下つたのでした。警視庁に呼び出されたなどということが、会長高嶺校長に知れたら大変だと思つてこのことは私は誰にも話しませんでした。が、學術雑誌として保証金を納めない雑誌は不自由なものだなあと感じたことでしたので、何とかしたいと考へはしたものと五百円という

大金は其頃出せもしないし、もう、発行所の本屋さんもそろ／＼嫌氣を催うして来たようですから、そんな金は出しもしなからうしと思つて、其儘にして、つゞけることにしました。

書店がいや氣になつたというのは、元來金昌堂は専ら教科書の出版発売をやつて居るので其広告機関としては、婦人、子供、家庭向きの、このような雑誌は不適當なものです。夫で創刊の前に二回大々的に新聞紙に広告して、四五千部の発売を見たのですが、其後さつぱり広告をしないので、発売部数もだん／＼減つて行き、一向利益にならぬという所からとう／＼書店から解約を申し出して来たのでした。それは何巻の何号からであつたか忘れましたが、其頃はもう編集に付いても自信が出来たし、費用の収支も会員外に千四五百部も売れ／＼ば結構やつて行けると思ひましたので、書店の解約申し出でに快よく応じることにして、いよ／＼純然とフレイベル会のものとして発行発売することにしたのです。

さうなると私も一生懸命です。自分で往訪記者にもなり、広告取りにもなり、活版屋への使い走りから雑誌の包装発送何から何まで一人でやらなければなりません。或る夏休みのとても暑かつた日、当時神田の一ツ橋に住まつて居たのでしたが、中村さんが手伝いに来てくれて、水漬けにした御飯を食べながら、汗だくになつて二人で包装して発送をすませたりしたこともありました。発行部数は減りもありませんでしたが、増しめせずに、費用の収支も先ず順調に行きました。

其頃フレibel会々員は何人位あつたかは記憶しませんが、全国幼稚園の数は明治四十年の統計年鑑に依ると、二百九十五で、保母の数は七百八十三人でありましたが、勿論会員はこの中の何分の一かであつたでしょう。

夫から二三年経つてから私は附属小学校の批評係を兼任することになつて、其方に多く時間を取られるようになったので、幼稚園へは和田実君という神奈川県師範学校の卒業生で、以前中村さんが其学校の校長時代の教え子であつた人が這入つて来ましたので、「婦人と子ども」の編集なり事務なりは一切和田氏にやつて貰うことにして、私は雑誌から手を引いて仕舞つたように記憶して居ます。

「婦人と子ども」を育てて行く上に付いては、黒田恩師を始め、本校職員の二三の方から深い同情と激励とを受けましたが、別して東京盲啞学校の小西信八先生から何かと御親切な忠言を戴きました。こゝに附記して今は亡き先生方の靈に對して深く感謝の意を表する次第であります。

さて明治四十一年に私は地方の師範学校長に転じ、中村さんも其後奈良県師範学校長に転任され、安井てつさんが幼稚園の主事をやつて居られたようでしたが、倉橋さんのお見えになつたのは、安井さんの後かと存じますが、其倉橋さんの手で「婦人と子ども」も「幼児の教育」という名実共に立派な機関雑誌となり、こゝに「婦人と子ども」發刊以来五十卷を重ねるに至つたことは誠に喜に堪えぬ所であります。こゝに五十年前の思い出を記しましたが当時幼稚園に在園した男

女の幼児達で、今生存されて居られる方々は、何れも六十近いよいお年になつて居られる訳です。実に五十年一夢の如し、この稿を草するに當つて、アルバムをくり広げて、其当時の先生や保母さん達の写真を眺めながら、暫らくは懐旧の念に打たれるのであります。

(了)

(三頁から)素よりであるが、幼児教育のためのも素よりである。幼児教育のためとしても、おとなの正しい独立心と世界心との確立を第一とする。われら自らに確立しない心で、幼児の心を教育することは決して希い得ないからである。

本稿において、敢て愛国心といわず独立心というのは、決して愛国心を斥けるのではないが、愛国心という語の、屢々誤用されたことのあるを思つてである。愛国心による独立心よりも、独立心による愛国心でこそあるのではあるまいか。又、敢て平和といわず世界心というのは、素より平和を思むのではないが、平和という語の往々曲用せられたことのあるを思つてである。平和は好ましい理想である。世界心はそれを実現しようとする現実である。

幼児教育を浅細、小局のことのみ思うものは、われらの間にはない筈である。しかも、われらの担当する幼児の教育が、如何に深く広き、人類生活の大局を基礎づけてゆくものであるかを、今日更めて、深思せずにはられないのである。

(一九五一、九、一〇)





アメリカ童話から

12

きげんの悪い鷺鳥

松原至大

あるところに、羽のおばあさん鷺鳥がいました。名をオーガスタといたしました。ある日のこと、目を覚ますと、とても御きげんが悪いのでした。

朝のお食事に、まるまるとしたいも虫を食べたいと思われました。それから青ばえも。そこへ小さなひよ子が出て来て、それを一匹食べようとしますと、オーガスタ鷺鳥は、

「があ。」と、大きな声を出して、羽根ではたきました。

小さなひよ子はびつくりして、

「びよ、びよ。」と泣いて、お母さんにはな鶏のところへ逃げて行きました。

オーガスタ鷺鳥は、大きなお池に行きました。そして冷たい水をたくさん飲んでから、自分のきれいな羽根をひるげて、水にうつしてしまいました。そこへ豚の子供が一匹、近かずきました。

すると、オーガスタ鷺鳥は、また

「があ。」と、大きな声を出して、「あつちへお行き。」と言いました。それから長い首をさしのべて、豚の子供のくるくると巻いた尾の先を、口にくわえました。

子豚はびつくりして、

「きい、きい、きい。」と泣きながら、お母さん豚のところへ逃げて行きました。オーガスタ鷺鳥は、豚の子供の氣持ちばかりか、その尾にも傷をつけてしまいました。

お母さん鷺と、お父さん鷺と、おばさん鷺と、おじさん豚と、それから三人きようだいの七面鳥が、そこへかけつけました。オーガスタ鷺鳥は、くちばしを上にして、まだ水鏡に姿をうつしていました。

「こつ、こつ、こつ、お前さんは、御自分のことを、なんと思つてるの？」と、お母さん鷺が聞きました。

「王さまですか？ お役人ですか？ それとも映画のスター？」

オーガスタ鷺鳥は、お母さん鷺とそのお友だちの方を、じろりと見ましたが、なにも言いませんでした。みんなに向つて、舌をぴろりと出しました。

そこでお母さん鷺と、お父さん鷺と、おばさん鷺と、おじさん豚と、それから七面鳥のきようだいは、犬のローヴァをたずねて、オーガスタ鷺鳥を、その広場から追い出すことにきめました。

「あんな御きげんの悪いおばあさんは、ここにいってもらいたくない。」と、犬のローヴァは大きな声でほえ立てました。

オーガスタ鷺鳥は、こうしてみんなに追い立てられましたが、平氣でほこりつばい道を、よたよたと歩いて行きました。一度も後をふり返りません。

間もなく、兎の長耳がいる草むらのところに来ました。そして

「があ。」と言つて、また羽根をひろげて、兎の方に首を突き出しました。まだ御きげんがなおらないのでした。兎の長耳は、飛ぶように森の中にかくれました。オーガスタ鷺鳥も、森の中にはいりました。

「なにかおひるの御馳走が、見つかるだろう。」と、思つたのでした。けれどなに一つ、見つかりません。やがて、赤い実のなつたやぶのところに来ました。

「これをとつてやるう。」と、怒こばつて言いました。けれど、それにはくちばしとどきません。

りす、しまりす、やまあらしが、そばを通りました。でも、一匹として、言葉をかけるものがありません。オーガスタ鷺鳥はさびしくなりました。そしてはずかしくなりました。

「私がむくれていたからかしら？——大分だいぶんね。」と思いました。

そのうちに、雷がなりました。そしてものすごい雨が降つてきました。オーガスタ鷺鳥は、木の下にかくれました。羽根がびしょびしょにぬれました。それなのに、まだひとりぼつちです。あの広場がなつかしくなりました。

「私はむくれていたのかしら？——ほんのちよつぱりね。」と、ひとり言ひとりごをいいました。

「ほう、ほうらうらう。」と、鼻はなが木の上で、大きな声を出しました。オーガスタ鷺鳥は、びつくりして、とびあがりました。頭の上をにわかにわかに蝙蝠ひょうぶがとびました。オーガスタ鷺鳥は、またとびあがりました。

やがてオーガスタ鷺鳥は、森を逃げ出しました。後を見ながら、こわごと。

「私はむくれていたんだよ。——とても不きげんでね。」と、はじめてはつきり言いました。

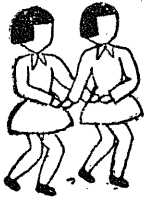
お母さん鶏と、お父さん鶏と、ひよ子たちと、おじさん豚と、子供の豚と、おばさん鷺あひと、七面鳥のきょうだいと、犬のローヴァは、オーガスタが広場へかけこんでくるのを見て、みんなでにらみつめました。

オーガスタ鷺鳥は、首をがつくり垂たれて、きまり悪そうに言いました。

「私がむくれていて、悪うございました。かんにんして下さい。またお友だちになつて下さいませんか？」  
そこで、みんなは御きげんをおしました。にらみついていたみんなの顔が、またにこにこになりました。

(ルース・ディクソン女史の作による)

…★私の記録より★… (3)



お茶の水女子大学幼稚園

堀 合 文 子

自由遊び

△計画 何度もくりかえされるように幼児の生活は遊びの生活で、その中に種々折込まれてゆくのであるから、特にここに改めて計画として出すのはおかしいのであるが、いわゆる言われている遊び、自発的に無計画的におこる遊びはこの年令の子供達にどの様に展開されるか、又どの程度指導的態度をとるか一つの興味でありました。

△実行 入園当初より、何はさておきただよく遊んでくれればよいと、それのみ望んで、自分も本当に子供にかえり、よき友達となり遊んでやる事を自分に言い聞かせました。

第一期は殆んど各自が勝手に好きな事をして遊び、友達と協力して遊ぶとゆう事はなかつた。二三の進んでいる子供はお友達と遊ぶとゆう気持があり、お友達に誘いかけるが、そのお友達は皆、勝手にただ好きな事をして遊んでいるのであるから、その誘いについてこないため、

遊ぶ事が嫌いになつた。その為幼稚園が嫌になつた人も出て来た。

遊びは砂場遊びが第一で、他はすべり台、時々、ぶらんこをする。太鼓橋も七月頃はさがれるようになった。第一期は殆んど庭の半分位しかの活動場所、部屋が端にある為か活動場所もせまいように感じた。

第二期に入り、第一期の遊びが各個人々々とゆうのところがつて、お友達と一緒に遊ぶとゆう事が出来て来た。その中でも仲間にも入れぬ子供が二人いる。十一月頃より男児は男児で女児は女児でと別れて遊ぶようになる。自然と遊びの種類も歴然とちがつて来た。汽車ごっこ、ままごと、砂場、すべり台、ぶらんこ、ジャングル、特にぶらんこはとても興味が出て来たらしい。おにごっこも遊びを理解して楽しむようになった。十一月頃は殆んど先生なしで自分達で遊びはじめ、楽しそうに、けんかも少なくなつた。

第三期、本当にお友達と遊ぶ事がおも

しるくなり、仕事等計画してもよくやめる事もある位、おもしろそうに遊んでいる。男児のグループと女児のグループは分れているが男児女児一緒に遊ぶようになる。もうこの頃はお友達と遊べない子供もなくなり、自然と皆に引ずられて楽しそうに遊んでいる。

遊びはままとが全部で、それに関聯して消防ごっこ、の売やごっこ、幼稚園ごっこがはじまつて来た。遊びの段階ともいうべきか、はじめは遊びが正しくはこぶがその中破壊的になり自然とその遊びがみだれてくるような傾向がみえて来た一つの段階であろう。

△反省 入園当時案じられても、一年後の今はもう先生なしでもどんどん遊べるようになり、遊びも単独な個々の遊びより団体的、協同的遊びに移つて来ました。真剣に友達同志と遊び、その会話を聞く時、ほんとうにはほほえましくなる時もあり、充分自分で遊びを工夫している事、そしてそれを実に楽しんでやつている事は、よくこの三才見にとびつくり

させられる位、生活が豊になり、それと同時に一年後の現在、十五人とゆう社会が少し少ない様になつて来ました。四月にはお友達を迎えますからこれも解決出来る事でしょう。そしてこの生活がどう変化するか面白いとおもつております。

## 健 康

△計画 保育には先づ健康保育と考えられるようにこの年令にも特に考えなければいけないことで、

出来るだけ戸外で日光の下で遊ばせる。

疲労感を与えぬよう、リズム的生活をさせ休息も適当に考慮する。

健康なる習慣、うがい、手洗、鼻かみ清潔、咀嚼やく、食後の休息、排泄等実行させる。

毎日健康記録をつける。

毎月、身長、体重の測定をする。

おべんとうのお茶の好ききらいに特に注意する。

△実行 戸外での生活は天候さえよければ大体実行された。

れば大体実行された。

疲労の点に於ては一番心配した事で、幼稚園に在る間は、大分遊んだとおもう頃、此方から、お話するとか、本よむとか、レコード聞くとか、紙芝居するとか休息の意味で、生活にリズムの波を与えた。勿論、お子さんゆえあつた等とは言わぬが、第二期に入り、リズム遊びをしている時、つかれたからやめると自分から言出して来るものが二人位あつた。いつもきまつた人で、でも少し腰かけていると又ビョンビョンとび出してゆく程度の状態でした。

さて今度は一日の疲労、幼稚園生活の疲労です。馴れぬ中、四月一杯は午前九時より午前十一時半の保育時間でしたが、それもはじめの中は疲労するらしく五月に入りお弁当にして一時半のお帰りにしましたが、帰りはねてしまふとか、疲れるのでぐづぐづいつてしようがないとゆうお話を聞き、なるべくお昼ねをしていただくようお母様におねがい致しました。七月に入り、一学期の終りになり

がしたがあつさのために、疲労もひどくなつたようです。第二期からはそんな事もなく、体質的にも相当しつかりして来たようでした。現在では勿論疲労等はどこへやらとゆう程元気ですが、やはり生活の中の休息は此方で与えるよう考えています。

健康なる習慣は比較的徹底致しました。此方も実行に当つては、子供達にまけず、手を洗えるよう用意したり、手拭の清潔、こゝろゆう事には時間かけても実行する等、協力したわけですが、手拭がきたないと、催促したり先生の手洗の批評する等、自分から健康の習慣を実行する態度が出来て来た事はよろこんでおります。はなが出たら一人でかむとゆう事も一日に何度となく注意をくりかえし、少し手間とれても実行させ、この頃はお友達が注意したり自分からかめるようになりしました。

毎日の健康記録 これは、健康記録とゆうより清潔記録で、服装(エプロン、ハンケチ、上着)身体(顔、爪、手)病

気(咳、鼻汁、外傷、皮膚病)その他と項目が分れており、個人個人、その日一日の清潔と健康状態を記録してゆくのABCに段階わけて記録してみました。

はじめ朝の視診として一々丁寧に実行してつけてみたが一週間、二週間とたち一ヶ月の後これをみる時、殆んど特殊な記録はなく、A、Aばかりで、私自身面白くなく、一週間おきにつけてみたがそれもあまり効果なく、残念ながら、この方には必要ないのか、いつも清潔ゆえ、つけるのは断念して、唯朝の視診のみにとどめてしまつた。

毎月の身長、体重は、その係の先生に日を決めて測つていただく、特別病氣した方以外は体重も、身長も増加しているようだ。身長は体重の割に増加率は大きい。一年間で身長が一番伸びた人は七・二糎増加、体重は二・五疋増加、平均大體、六・一糎増加、一・一疋増加している。

△反省 三才児の保育時間は、始めはほんの少くてよいようで、馴れぬ為の緊

張と生活で多大の疲労を感じるようになります。一年後の今日でも生活には馴れても今度はこちらで、先生なり、母親なりが適当な時機をみて、適当な休息を与える事こそ、健康にも、又次の活動のエネルギーにもなるわけです。

とかく馴れて反能も出て来ると忘れがちな休息こそ大事な事だと思ひました。

健康の習慣も我ものにしてしまえば何の苦勞なくむしろ反対の状態の場合に不快を感じるので、これも幼稚園だけでなく、家庭と連絡をとり、協力していただく事が特に大切と思ひました。

一年後にはこんなに大きく、元気に、成長發育して私もうれしいのですが、一年間幼稚園生活しないで、家庭にいた方と、この人達と比べてみて、どうであるか、私はこれを一つの研究事項に持つていたのですが、考えるだけで研究出来なかつた事はとても残念でした。健康方面のみの事ではありませんがこれは一面の疑問として残されてしまいました。

## 音楽とリズム

△計画 音楽は人の心をやわらげてくれる。幼児も音楽に親しみ、リズムを感じる。心をやわらげ、情操をたかめる。

何か幼児には音楽を持つて生活してこそ、なごやかなそしてするどい感覚の持てる生活が出来るとの信念で、幼児の時代に、豊富に音楽に接触して、その基礎をつくるよう、考えて始める。

音楽にしたしませる

音楽に併せて歩けるようにする

音楽に併せて簡単な自由表現をする

歌はなるべく簡単な、小節の少ないものを選び、動作にてその音楽を体得した後、歌詞を教える。遊戯のあるものもなるべくその出来上つたものをせず、子供の達の表現をとり入れる。律動を多く使用、歌を少くする。歌をうたう事は期待せず先づリズム体得をこの一年考える。子供の生活より題材をえらぶ。リズムは、器楽はハンドカスターだけ使用する。よい音楽を聞かせる。



即興詩、即興音楽は取上げてみる。

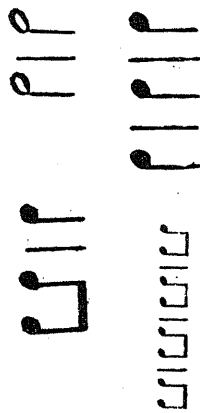
△突行 十五人のものが一人残らず一応、計画した事が出来るように、出来ななくても、少数のものが出来れば先へ進むとゆうのでなく、一人でも出来なければ待つ態度ではじめた。

第一期 入園当初は勿論、まぢまぢの

音楽感覚で、先づ、音楽に併せて歩く、それも円にならず勝手に歩く事をして、リズムミカルな動作に早くなるよう望んだ。遊戯は、勿論旧来の習慣はやめ、自由表現より入つた。先づ、曲(結んで開いて)で歩き、曲の最後より、こちらの注文、象、あひる、兎、汽車、等になつて歩いてもらう。これはいきなり、音楽に併せてした事のない彼等にやつても、充分此方の希望をかえしてくれた事はうれしかった。

第一期は殆んどこの方法で、歌のあるものも、三つ位動作のついでにあるものは

一つの動作で全曲通す等、自由表現ですべてやらせた。六月頃、一曲の中に二種類の動作をやらせたが、出来る人はやるが皆がスムーズにゆかぬので止めてしまった。一期の終り頃は、一曲、二動作の表現も出来るようになった。即ち、曲についている振も、三才児の程度にすべて変えて用いた事になつた。リズムの方は



これだけ一期に体得出来るようになって、スキップは入園当初、出来る人は、女三人男一人であつた。お母様かたが気をもんで、お家で練習なさつたのか一ヶ月経たぬうちに殆んど出来るようになってしまつた。一人、お家でも練習しないらしく、一期終つても、駆け足をしてい

た。私はこの方が何時頃出来るものか、全然手を加えず、みてゐる事にした。

第二期、大分、曲を聞いてリズムミカルに歩けるようになった。二三の者が、注意しないと忘れて勝手に歩く。

子供達の生活に曲をつけ動作してもらふ。例えば、砂あそび、遠足、おしごと芋掘り等。自分達の生活だが、殆んど自由表現で、そこに創作も含まれているわけだが、皆とてもよるこび、本当にたのしそうに表現してくれた。

リズムは、まだ一期のを全部の人が完全に出来ぬから今学期はこのまゝ使う。

第三期、曲を与えて、勝手に好きな動作を表現させる。曲をはじめ聞かせ、皆でどんな感じがするか、どんな事を想像するか、話合つて、それから表現してもらふ。やつてみれば、結局、人のまねになつてしまつたり、終始、一動作で終わるが、まあはじめはそれでもよいと思つた。二三度繰返している中、種種の表現を要求してみたら、前より進歩、創作的表現がちらほらみえて来た事はうれしか

つた。此頃はいわなくても、曲に併せるとゆう観念が出来たらしい。

リズム、は  を加えた。

面白い事に、今まで円をつくる事はあまりさせず、二期に、運動会等の時やつたが、後は殆んどばらばらでやつたのに円がつくりたくて、自分達で歩くとき自然と円くなつてしまふ。そこで、円く歩く事、手をつないで歩く事、中心へ、外へ歩く事等やつてみた。スキップが出来なかつた一人も三期にはスムーズでないがどうか出来るようになった。

鑑賞は一期の時より時々、休息の手段に、雨の日のなぐさみに用いたが、聞く事が好きで、催促する位である。唯じつと聞いているのもつまらないので、動作出来るものは一緒に動作する。よい静かな曲は、静かに聞いてどんな事が目につつたとか、気がする等聞くと、小さいながら、適切な、うがつた感覚を持っているのにおどろく。

器樂は、この年令には、年長組のみ

る事と、多くて二種類の樂器使用しか期待せず、むしろ、皆がそれを使いこなせるとゆう事に力を入れたため、編成は全然やらなかつた。

第一期も二期も三期もハンドカスターが、スムーズに、正確にうてる様の中へ興味を増すため、一期の終り頃よりタンバリンを入れた。むしろタンバリンの方が、皆早く修得してしまつたようだ。又、太鼓も先生が入れる事にして入れた。太鼓は興味の的で、一人づゝ行列して、何回たたく等、遊んだが編成には入れなかつた。

樂器を交互に使用する編成と、「結んで」だけは、音通り叩け、タンバリンとの合奏が出来るようになった。現在、ハンドカスターと、タンバリンは、十五人大体、使いこなせる。

三期の終り頃より拍子打をはじめたが、二拍子位でそれも正確をかか。

△反省 入園当初、リズム遊びに加わらなかつた人が一人いたが、一ヶ月ほどたつと皆と一諸にやれるようになった。



自由表現で入り、自由表現で殆んど通して来たが案じた程、でなくむしろ、いつもよりよるこんでする様で、誰も、リズム遊びが嫌いとうゆう人がないのはうれしい。これは年令の小さい為であるかもしれぬが、やはり子供達の生活の中に音楽をもつてやれば、よるこんで動作も、出来、楽しんで出来るらしい。今後、出来上つた、動作にとらわれず、自由の子供達が表現出来るよう曲の埋括を考えねばならぬと思つた。

年少程、歌曲より、曲のみのものがやりやすい。

一年で少しは音楽と、体、動作、表現とゆうものが関係ついたらしい。勿論年長でも完全なものには要求しないが、少しなりとも、音楽、リズムとゆうものを感じてくれればうれしい。後の二年でどう変化するか、芽がちよつと土から出た現在、将来の芽はどんなでしよう。

### よき習慣

△計画「三つ児の魂百まで」とゆう如

く、なにか習慣も今の中にしつかりつけておかぬと思ひ、日日の生活のよき習慣、社会生活上のよき習慣を、日常の生活の中に注意する事にしました。これは今の中、これはもつと先でもよいとゆうのでなく、生活の中に起る事にすべて私共が機会をみて、約束なり、注意してその都度習慣づけるよう努力する事にしました。そのため、どんな事を習慣としたかとの項目も、すべて皆、よき習慣にするため、この年令ではこの程度とゆう事なしにしたので事件のおこる機会のある毎にそのよき習慣を考慮したので項目は上げずにおきます。

△反省 幼稚園生活でのよき習慣は殆んど履行され、反すれば、友達同志で注意するようになつた。社会生活の方面は少し、自発活動のあまりか時時、自我を出してしまふ時もある。

ひどいけんかとうゆうのもなく、比較的、おだやかな気分はのぞましいと思つてゐる。

x x x

によつきりと大きくなつた。顔もお姉さんお兄さんらしくなつた。私も母親のようになれる、ぐずぐずしていた人はほがらかになつた。皆にこにして生活を楽しんでゐる。たとえ計画は履行出来なかつたりもつところすればよかつたと後悔するが、こんなにも楽しく生活をしようになつた事のみで私は満足している。三年間いた方がよいか、二年間でよいか、始めはこんな事も研究の目的とはじめたが、この結論は三年後の事にして今は、三才児の一年間の生活をよるこびつ三年後の彼等を期待しつゝ筆をおく事にする。

以上私の記録よりの反省をつらねた形にとどまりましたが、三才児としての一年間の生活のみしかわからず、むしろ新入園児、一年間は家庭にいたものの、二年後、三年保育の三年後とゆうものの比較は、二年後にのこされ、私もその間の経過を楽しみにしつゝ研究してゆきたいと思ひます。

## 第五回

# 全國保育大会記

昭和26. 8. 6—7日

於 仙台市公會堂

1

全國保育大会も回を重ねる事五回今年はやかりも懐かしい「さんさしぐれ」の杜の都、仙台市で開催された。はじめ七月二八、九の頃開かれる予定であつたが、名物の七夕祭を、是非全国の関係者に見て戴きたいという仙台市長のあたゝかい心遣で、一週間程くり下げられて八月上旬、六、七の両日同市の公会堂で催おされた。

大会に先立つ四、五の両日は、同市尚網女学院講堂並に体育館で恒例の全國保育講習会がもたれたが、實際家として、又行政事務担当者としての多年豊富な体験に裏打ちされた厚生省吉見保育課長の講ぜられる『保育の重要性』をはじめとして、幼児心理学の權威森脇立大教授の講ぜられる『幼児の心理』その他宮城県中央児童相談所長小川芳雄氏による『幼児の精神衛生』音楽教育家笈田光吉氏による『音楽創作指導』奈良女子大助教授土屋登氏の講ぜられる『リズム遊戯指導』等、いずれ

もこの講習でなければ聴けない含蓄の深い迫力に溢れたもの。施設から研究所から、また役所から大きな期待に胸ふくらまして、年に一度のこの講習会に走せ参じた、同じこの道を行く人々の動きを追いながら、熱心に鉛筆を走らす。一と頃に比べると格段の相違があるとはいうものゝ、国民の各層に、まだ保育という事の重大な意義が、必ずしも徹底しているとはいへないが、今日、そしてそのためでもあるが、保育従事者が社会から待遇されることも決して厚いといえない今の日本で悔いなき熱情を眉宇と双頬にみながらしてじつと聴き入っている、堂に溢れる人達の群れは、胸の奥底からあつたものをこみ上げさせる。明日の日本を背負う者達がこの人達の手ですこやかに育つて行く。頼もしく力づよい感じがされる。講習会の最終日、第二日目、八月五日の講習終了後、全國保育大

会の行事の一つとして、八月二日から八日まで、三越五階ホールで開かれた全保連が主催する『幼児の絵と作品展示会』に出品された作品に対する、賞品授与の式が行われた。全保連賞、県知事賞、県保連会長賞、それに業者からよせられた各種の賞品が山と積まれ、幼ない芸術家の名がよばれる毎にそれが少しづつ崩されて行く。表彰されたせず、賞状と賞品は施設の先生方によつて代つて受領されたが、どの先生もどの先生も、自分が賞状を受け賞品を貰うような身体一杯のよろこばしさをかくし切れない。

## 2

同じこの日、宮城下レスメーカー女学院講堂で全国常任委員会（総会）がもたれたが、会する人々約百三十名程協議せられ決定された事は、今後『全国保育連合会』（全保連）という名称を『日本保育連合会』（日保連）とすること。蓋し、間近い講和条約の調印

を控え、今後は日本の保育界も国際的な連関を有つことが当然に考えられるので、そのためには『全保連』という名前は必ずしも適当なものといいたというのが提案の理由であつた。又従来連合会の会員として個人会員を認めず、施設による加入だけが認められていたのを、これまで連合会の育成強化に著しく貢献あつた個人を、今後会員として認めてはどうかとの提案があり、これも満場一致で可決された。そして前会長倉橋惣三、前副会長阪元彦太郎、副委員長鈴木信政、副委員長秋田美子の四氏が、湧くような拍手で以て最初の個人会員に推された。

役員改選の事が諮られ、これには

委員長

倉橋 惣三

副委員長

青柳義智代

同

秋田 美子

の三氏が推された。

× × ×

名物の七夕はこの日の午後には大部分飾り付けがをわり、東一番町から、

名掛町、大町通りに掛けて三丈にも及ぶ孟宗の青竹に、夫々に趣向をこらした五彩絢爛の色紙が目を奪うばかりに吊され、町の両側に林立する。色紙の端は行人の頬をやわらかに撫で所々にしつらえた山車の飾り物のうしろからは、ピーヒヤラドン／＼と東北的な音調が洩れる。町をあるけばさながらにのぞき眼鏡、万華鏡の中にあるよう。進駐車の兵隊さんも「ワンダーフル」の連発だ。たゞ惜しいことに、この日夕景から心なくも俄雨となり、折角の七夕が、われをぼつて色が流れたものが二三あつたのは遺憾であつた。

## 3

明くれば六日、いよ／＼大会当日である。夜半には雨もやみ、絶好の行事日和、定刻九時には南の端から、北の端から、たゞこの日のために文字通り千里を遠せずとして来たりつどつた人々がさしもの広い市公会堂を、所狭しとうづめつくす。定刻までの来会者約一五〇〇名、のち続々とつめかけて、

参集者の総計は二、〇〇〇を超えた。

定刻、宮城県保連会長による開會宣言に、式ははじまる。ついで国歌齊唱——講和を近く控えて思いなしか、歌声も何とはなしにはづむよう。をわつて全国保育大会長の挨拶、厚生、文部、両大臣、宮城県知事、仙台市長、市協賛会長の祝辞あり、保育歌を合唱して一まづ式を閉じる。

少憩の後、議事日程に入り、左の議案を慎重真剣に審議ををわる。

一、児童憲章記念週間を設定すること。

これは九州地区よりの提案であつたが、児童福祉週間というものがある以上、これと合体して考慮しても格別不都合がないではないかという意見多数をしめ、特に設ける事はしない事とする。

二、保育所と幼稚園の機能分化について

これは宮城県よりの提案である。問題の性質上、分科会付托が適当である

との意見多数、第二分科会付托のこととする。

三、就学前幼児教育の明確化について。これは四国地区よりの提案、趣旨大いに可として諒承可決。

四、幼稚園教諭と保育所保母との資格共通に関する件。

関東地区よりの提案、異議なく満場可決。

五、全国保育連合会の新しいあり方について。

関西地区よりの提案、『終戦後の混乱の中から幼児の幸福を念じ教育建国の基盤としての幼児の進展を企図して発足した全保連も結成後早五年、内外情勢の変化と共に一応組織運営に再検討の時機が到来した感があるので、全保連のよりよい育成を目標としての正しいあり方を審議したいと思つて本問題を提出』というのが提案の理由であつたが、昨五日の常任委員会の決定は根本的にはこの問題を包摂するものであつたので、重ねて審議をわづらわす

要がなくなつたという認識の下に提案者より撤回の申入れあり。

### 3

以上を以て議事日程ををわり、記念講演あり、講師は中央児童福祉審議会委員長中川望氏、演題は『児童憲章と乳幼児保導』、熱と迫力に溢るゝ一時間、聴衆に多大の感銘をのこして名ごりおしくもおわる。

昼食後一時半よりは分科会である。

第一分科会（幼児文化全般に就て）

市公会堂において

第二分科会（制度、組織、経営）

第一部会 幼稚園 東北大学法文

学部講堂

第二部会 保育所 同医学部講堂

協議題は左の通りである。

第一分科会（一）不良文化財の駆逐

と優良文化財の選定及び免税について

（北陸）（二）両親教育の方途について

（北陸）（三）幼児の創作表現の正しい認識とその鑑賞指導について（関

東、東海）（四）幼児の実態調査の資

料作製について(関東)(五)幼児の言語、生活をどのように指導するか(東海)(六)幼児期における玩具の取扱方について(東海)(七)視察指導について具体的方法を問う(東海)(八)全国幼児画展覧会開催について(関西)(九)幼児期における道徳教育について(関西)(一〇)児童憲章の原則並に十二条と幼児教育の具体化について(関西)(十一)適切なる健康教育のあり方について(関西)(十二)保育効果の評価基準について(四国)(十三)個人生活、社会生活、家庭生活等における望ましい幼児の生活絵図、スライド、等の編集に就て(十四)一日の保育プログラムを如何にすべきか。

## 第二分科會

第一部會——(一)幼稚園保育所の完全給食について(北陸、関東)(二)幼稚園教諭の養成機関を各都道府県毎に学芸大学内に設置するの件(関東)(三)学校法人以外の私立幼稚園に対して補助金制度を適用されたい(関東)

四)文部省に幼稚園課を設置するの件(東海)五)幼稚園教育と小学校低学年教育との連絡方法如何(東海、関西)(六)市区町村立幼稚園教員給の財源確立について(関西、関東、四国)(七)幼稚園教員の臨免を仮免に昇格する方法について(四国)(八)公立幼稚園教員の給与を、小中学校同様に措置せられたり(東北)

## 第二部會

(一)職員待遇改善について(北陸)(二)季節保育所を児童福祉法の施設として認められたい(北陸)(三)保育所の給食設備費に対し国库補助をされたい(北陸)(四)三才未満の幼児教育カリキュラムを作成するため研究機関を厚生省に設けられたい(関東)五)保育所保母養成所設置について(関東、北陸)(六)保育施設経営上直面した問題と社会保障制度の確立促進について(東海、)七)最低基準の改正とともに措置費を平衡交付金外におき国库補助とされたい(関東、東海九州)(八)すべての保育に、事務

職員をおくよう最低基準を改正し且つそれに要する事務費の基準を増額せられたり(九州)(九)保育料の認可制を届内制(最低基準費用の枠内において)法を改訂する件(九州)

## 5

六日午後五時よりはリクリエーション、仙台市の招待により市公会堂において『郷土芸術の夕』を観賞、をわつて三々伍々打ちつれて七夕の色ゆるわしく、ネオン輝く街を見物。

七日の午前中は前日に引きついで分科會、午後は松島招待にはじまるたのしい観光視察の日程に入る。

- 第一班 金華山観光
  - 第二班 平泉、花巻温泉観光
  - 第三班 十和田湖めぐり
  - 第四班 会津磐梯山、東山温泉観光
  - 第五班 松島遊覧
- と多彩絢爛たる日程だ。事務局側の御心労の程もしのばれる。
- かくて六、七両日にわたる意義ある大会のついでいは大なる感激裡に、又来るべき年の再会を約して、おわつたのである。(記者)

# 第二回全國々公立幼稚園々長會

## 福 島 總 會

### (一) 展 望

八月四・五日太陽も狂おしいまでに威力を發揮している土用の季節であるが、全國から馳せ参じた園長さん達にとつてはものゝ数ではない。教育熱の方がはるかに熱を圧倒しているからである。八月六・七日は仙台市に全國保育大会があるため、これにかけて出席された方々が大部分であつたらう。

会場地—福島市は東北の関門であり、なりは小さいが幼児教育には熱があるという定評を受けている。更にまた温泉飯坂を郊外にもち、果物の産地、人情の里として知られている。こゝに集つた園長さんは百七十名、次に内訳を披露すれば

青森 二 岩手 一 福島 八 新潟 一  
栃木 一 千葉 一 群馬 二 東京 二七  
長野 一 静岡 二 愛知 七 岐阜 四  
滋賀 四 大阪 五一 京都 二三 兵庫 二五  
奈良 三 和歌山 一 徳島 八 岡山 一

### (二) 理 事 會

広島 三 山口 二 香川 五 大分 二  
長崎 二 熊本 二

東北の名湯飯坂は福島駅から電車で二十分、摺上川の清流に沿つた美しい町である。こゝの若喜屋は八月四日午後全會員の姿を吞んでしまつた。一風呂浴びるともう岡田会長始め常任幹事の園長十五名は、新館の二階にほゝ笑みを交して会全体の運営についての相談である。いわゆる遊山気分は毛頭ない真剣な物腰に打たれる。

続いで大広間に約五十名程集合して理事會が開かれたのは、漸く川風も涼しくなつた午後五時半。

岡田会長の挨拶は、政府への陳情請願によつて幼稚園費を計上される運びになつた喜びを伝え、本会の會員も現在すでに五百名に達した成長振りを祝福し、本年度の目標は會員のものを育て充実させることを強調し

た力強いものであつた。終つて地元福島市の桑原会長の挨拶、続いて会務の報告が行われた。次は本会規定による役員選挙である。これは正にこの理事會の山とも言うべき重大な一コマであつた。結局、東京の金田氏の動議により現会長、副会長の輝かしの功績にこたえ、会創立後間もないことも理由として全員拍手のうちに万場一致再選と決定した。岡田会長、小林河原副会長から固い辭意の表明があつたが容れられなかつた。

議事で主なるものは

1 プロツクの分け方を、全保連や小中学校長会と同様に変更する。

2 会則を変更して会費を三百円に増額するよう総會に提議する。

3 總會の議長は地元から出したいこと等、總會運営の方法について協議が行われた心づくしの地元招待會は、佐藤福島市長の隠し芸に始まり、夏の宵の快適な涼風をあびて更くるまで続けられた。

### (三) 總 會

八月五日午前八時、バスに乗つた會員が早くも会場の福大附属中学校に姿を見せる。校舎は古めかしいが、どことなく床しい香りがある。狭い講堂はどつと寄せた園長さん方であちまち一杯になつた。受付をすませるともう開會の時刻である。

#### 1 開會式

岡田会長の挨拶は例のごとく慎重な中に火

のような熱誠をこめて感銘を与える。

来賓の祝辞に移れば、福島県教育長小野先生から親しみ深い態度で、性格教育上から見た幼児教育の重要性が話され、いわゆる三つ児の魂百までも真義を強調された。丁度このとき文部省の初等教育課長大島先生と玉越先生が、朝着の下り列車でおいでになり会場に見えられた。さつそくながら進行係からの紹介があつて、文部大臣の代理として大島議長が壇上に立たれる。迫らない温厚な腰で静かに話される。幼稚園教育の使命が大きく見直されてきた現在、日夜たゆまぬ努力をささげている園長の労をねぎらい、新しい建設時代であるからお互に融和を深めて努力してほしいと結ばれる。続いて地元福島市長から会場地を引きうけた光栄と歓迎の心が述べられた。

## 2 議事

(1)議長は理事会の協議通り福島第四園長桑原氏が拍手のうちに承認される。桑原議長登壇、真摯な挨拶がのべられ、さつそく議事に入る。

(2)会務報告—会計は東崎理事から、庶務は福田理事からそれぞれ報告があり、労に感謝する拍手を浴びて承認される。こゝまでが本会の前年度分の区切りである。かくて新しい発足が次の瞬間から始められる。

(3)新会長の挨拶—岡田、小林、河原の各正副会長が再選を快く受け入れられての力強い挨拶である。

(4)総会までの経過について—福島第二園長峰谷氏から、本会幹部の熱意、各団体の後援のおかげを強調する報告があつた。

(5)会則審議—愛知から第十一條の会費年額百円では低額にすぎることから三百円と改正し、尙不足の際は各地区の工夫によつて補うようにしたいと提議。賛成の声があがる。広島からは、会員の増加をはかることこそ緊要ではないかとの意見が出され、大分の賛同があつた。こゝで本会経費の苦しい状況について本部役員から発表があり、まだ未入会員が約三百あることが明らかにされた。裁決は、会員増加の運動申合せを附帯して三百円と決定。協議題の審議に移る。

(6)幼稚園教育と小学校教育の連絡を如何にすべきか—四園から提案説明。

福島から、兼任園長の体験として小学校児童のうち九十パーセントが園児である好条件の発表。東京は、小学校との連絡会を強調し、新潟は幼小中一貫した研究会の実施を発表。奈良はカリキュラムの一貫性を論じた。こゝで滋賀から幼小小間の教員資格の共通について文部省陳情のことが叫ばれ、給与も県費としてほしいと論じる県があり、長野大阪等から意見の発表があり本部でとりあげ各方面に請願陳情することにまとまつた。

(7)平衡交付金法教育費の中に幼稚園と明記された—近畿から、わづか徳島だけが三十一%の県費負担となつている実状等の説明。長野からの動議で文部省側の意向をきくこと

になり大島課長から、要望通りになるよう前々から研究中であるとの答弁を得た。さらに小学校教員と比較して待遇が低い実状を訴える声が出、約十三県から挙手があり、もつと詳細に実状を調査すること、なつた。岡田会長からこの種の調査協力に誠意を示してほしい旨の希望のべられ結局陳情運動展開を決議した。

(8)各都道府県国立大学に附属幼稚園を設置したい—関東提案。

東京及川氏から、現在持たない県が十四あるが、地元園長は各大学に運動されたいとの発表があり、政府に対して要望することに決定された。

(9)一般社会人に幼稚園教育の本質を認識されるための最も適切な方策は如何—近畿提案。徳島が起ち、保育所と幼稚園の教育の区別を市長や市議等自身が明瞭にすべきであり、PTAに対する啓発が必要であると論ずる。大阪からは、会場に飾られた展示物を説明し、市の理解が高まりつゝあることの発表があつた。続いて福島は、文部省と厚生省の間で幼児教育について正しい研究をしてほしいと論じ、滋賀は、PTAを動かすべきことを提議した。

(10)日本教育連盟に加盟の件—本部提案として小林副会長から「本会も他の小中高校長会と同様に加盟を呼びかけられてゐる。しかし、もう少し研究を深めるまで保留としておきたいので、その間に会員諸氏の考究を望む」と

説明がある。これに対して諸方から加盟賛成の声が出たが、本部の態度通り決定。

(1)緊急動議——東京から「幼稚園教員養成所の履修期間を一ヶ年ではなく二ヶ年にしてほしい」と提案する。これに対し岡山、香川等から、その地区の状況によるべしと発言。その他愛知からは、設備環境の貧弱、教員待遇の劣悪などの面から幼稚園教育に対する危機を絶叫。当局への有効な運動を申合せ、かくて約三時間近い協議の幕を休憩なしの強行のうち閉じたのであった。

### 3 閉会式

会長から「会員の協力を謝し、当番福島島の労をねぎらい、おかげで各々楽しい思い出を持つて帰る幸福を」力強く挨拶して閉会を宣した。

## (四) 印象

### 1 幼児生活展覧會

本会議場とそこに通ずる廊下の壁面に飾られた図表写真絵画等数百点がそれぞれである。実にきれいに品よくでき上つた視覚作品で、文化的な香りを発散している。これは大阪市立幼稚園研究協議会が、わざわざ持参したもので、幼児教育の重要性を社会一般に認識させ、幼児教育の普及を促進し、保育義務制の機運を促進したための労作である。その内容をぞいてみると、1幼稚園はなぜ必要か、2幼稚園とはどんなところか、3幼児期の体、しつけ、玩具、言語、音楽と

リズム、幼児期の科学教育、幼稚園の変遷など十項目に分れて編纂されている。総会が終つてからまで盛んにノートしている会員が多数あつたが、本堂に堂々たる研究物である。もつと多数の社会人の目に触れさせたかつた。福島市では、これを九月末まで借用して一般に公開することになつた。

これが大阪の大丸百貨店に初公開されたのは、今年の二月から三月にかけての二週間であつた由。市民三万三千人の観覧を勝ち、多大の感銘を与えていた。岡田会長は「大阪市立三十四園、二百に近い実務者の悲願の結晶です」と語つて居られた。この努力には全く頭が下る思いがする。

### 2 記念撮影

約二百名の参加者が、古色床しい玄関前の庭に参集して、バルコニーから見下したカメラのレンズを仰いでいる。さなきだに暑い日照りにさらされて、体と体を接触させてちつと立つている——不平もなく。

パチリとシャッターが切られ写真やさんの頭がピヨコンとお辞儀をする。皆にくくとして散つてゆく。さわやかな夏の風が吹き通る——この風景がなんとも云えぬなごやかさを描いていた。

### 3 懇談會パーテ

これはまた新鮮な窓の高い明るい会場である。福島市立幼稚園長会の心からなる歓迎の宴が設けられている。型通りの儀礼が交付されて後は、全く自由な肩のこりをもみほぐす

笑いの巷が現出される。各地区からは代表の芸術が次々と披露されて盡くるところを知らない。全国演芸コンクールの観があつた。「万歳々々」幼児のよう純真な叫びと、無邪気な拍手があがるまで、完全に時間を超越した園長さん達であつた。

### 4 感有り

幼児教育の実務者はどの方も心おだやかであり、幼な子のような美しい気持を持ち、子供への愛情を傾けて真剣に世話をし踊り歌い馳けまわつている。それは教育界のパラダイスであり汚れない無菌の世界である——唯これだけでよいのであろうか。世の批判者は幼稚園教育の後進性を歎いてる。経営者の目には、設備に、教職員の待遇に、社会人の無理解等々に矛盾や空虚が写つてくる。

こゝに無風帯では済まされない深刻な悩みが必要になつてくるのではあるまいか。強力な組織と実践と評価と、これを貫く筋の通つた理論性と、社会人の納得が要求されはしないだろうか。

全国を一つにした園長会は、かくして生れ今や幼児教育界の先頭に立つて、自ら困難を引き受け、いばらの道を拓きつゝある。

福島総会が、その第二回目のたゝかいに幾らかでも貢献するところがあつたとしたら、当番園長たちにとつて望外の満足である。

(福島市 作山記)



## 幼児の健康保育 (十三)

お茶の水女子大学助教授  
愛育研究所員 平井信義

十月の母の講座には何を話していただきましょうか？

一年を通じて十月は、子供たちにとつて、最もよい月です。食欲は増し太つて来る、天気がよいので戸外で思う存分あそべる、病気が少い——本当に十月は小児科医の一番暇なときなのです。このよい季節にぐづぐづしている、冬という悪魔の季節に、子供たちはいろいろな病氣のお見舞を受けなくてはならないでしょう。

薄着にと心掛けていますか？ 今から着せ込んで、冬に着せるものがない、という様なことがない様に。

お日様の下で心ゆくばかり紫外線を浴びていますか？ 冬は日光浴が出来にくい時です。今からビタミンDの蓄えをしておく様に。

栄養に心掛けていますか？ 必要な栄養素を総て充分に身につけておくことは、病気を防ぐには非常に役立ちます。あめなどを嘗めさせて食欲不振を招かぬ様、偏食を癒して何でも食べる様に。

予防注射はすんでいますか？ 百日咳、ジフテリア、結核などに対して。之らは近所に流行してからではもう遅い。予防注射が終えてから免疫が出来るまでに二カ月もかかるのですから、未だすんでいない方は今すぐにする様に。

扱て、今日のお話は「新しい育児のねらい」という題にしましたが、特別耳新しいことではないかも知れません。というのはいくらまで私が断片的にいく度か申上げて来たことなのでしょうから……。

お母様の中に、御自身を、或いはお子さんが「丈夫なので医者にかゝつたことがない」と仰しやる方はありませんか？ 「医者にかかつたことがない」という形容は、本当に丈夫の印しで、心からお祝いしなければならぬかも知れません。然しそれをきく私は悲しいのです。「何？ 悲しいつて？

病人がいなくなつたら食いつばぐれるのを、お前は悲しんでいるのだね」と医者の方にこう仰しやるかも知れません。然

しそうではないのです。私は、医者イサの職業を「病氣ヤミを診るもの」と考えていることが悲しいのです。

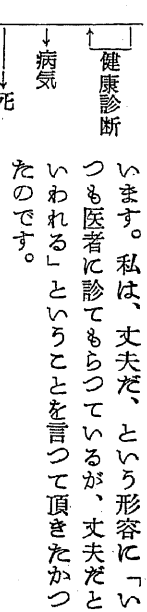
「ではお前は病氣ヤミを診たり・癒イユしたりしないのか? と問  
い返す方があるでしょう。勿論、私は現在、病人ヤミヤミを診たり、  
癒イユしたりしています。然し私は一日も早くこの仕事をやめたい  
のです。「どうして?」それは病氣ヤミが嫌いだからであり  
ます。一日も早く、世の中から病氣ヤミがなくなつて欲しいと、  
心から願つてゐるからであります。

その第一歩として私は「病氣ヤミを癒イユす医者イサ」を一日も早く廢  
めて、「病氣ヤミにかけない医者イサ」になりたいのです。健康な方々  
に注意を与えて、病氣ヤミから護る工夫クワフをし合うことに尽したい  
のです。或いは素人では氣付キツかれない極く初期の病氣ヤミを見付  
けて、一寸した注意だけで癒イユしたいのです。そうすれば誰も  
が病氣ヤミにならずに済みます。之を予防医学ヤクガクと呼んでゐます。

家族カザク、殊に子供コドモが病氣ヤミになつたときのことを考えてござらん  
なさい。その心配、時間の浪費ロウヒ、そして経済ケイジの失調——私共  
貧しい俸給生活者ホウキョウに、病氣ヤミは全く「ギョ!」であります。子  
供コドモの病氣ヤミくらい辛いものはありません。之は医者イサであるおや  
じも同感ドウカンであります。

病氣ヤミにかけない工夫クワフをする、或いは病氣ヤミを極く初期で發見  
する——之が健康診断ケンコウであります。病氣ヤミにかゝる前に、打つ  
ておく手が健康診断ケンコウなのです。

そこで皆さんは、初めに私が「医者イサにかゝつたことがない  
程丈夫ケツヂウ」という言葉コトバを悲カナしんだ理由リユウが、お分ワカりになつたと思



私共は現在、病人ヤミヤミも診てゐます。然し仕  
事の半分は健康相談ケンコウに使つてゐます。アメ  
リカでは、全部の小児科コドモ医イサの傾向が、六〇%は健康相談ケンコウ  
です。医者イサが往診オウシに行く——それは注射薬シユツヤクの一杯詰つたカバン  
を下げていくのではないのです。健康診断ケンコウのためなのです。  
ですから、アメリカの子供コドモの死亡率シユツリツは乳見ニメは日本の半分、幼  
見コメは九分の一であります。

ところが日本の医者イサの大部分は病氣ヤミを癒イユすことに専念して  
います。むしろ予防医学ヤクガクのことを忘れかけてゐます。今日は  
いゝ話をきいたから、といつてお母様オカサマが、近所キンジョの医者イサにつれ  
ていつてござんなさい。「病氣ヤミでないのに何ナニしに来た」と叱  
られたといふ話を先日マコトききました。之は本當マコトに残念なことで  
す。

もし病人ヤミヤミがいなくなつたら——と苦勞性クノウセイのお母様オカサマは仰オホしや  
るかも知れませんが、——医者イサは食クいははぐれてしまはないか、  
と。ご心配ゴシヤクありがとうございます。が、そのご心配ゴシヤクはご無用  
です。第一人間ダイニヒヤクの生理シヨリについて、まだまだ分ワらないことだら  
け、むしろ神祕カミツミとさえいえる程ほどなのです。又、本態ホンタイの判ハらな  
い病氣ヤミ、癒イユせない様な病氣ヤミも沢山タカシあるのです。予防ヤクブのできる

様な病気にかけて使うお金をそちらの方に廻してもらえば、私どもは、人間の生体をつかむ深い研究が出来るのですし、或いは「不老不死」之妙薬などが發明できるかも知れませぬ。本当に楽しみなことです。然し病人が続々来て、病気を癒す事に追われていたのでは、この楽しみを味うことが出来ないうで本当に残念なのです。

話が横道へそれたが、今、健康かどうかをどうして決めるか？ こゝに一つの例を述べてみましょう。三才八ヶ月の可愛い女の子でした。両親も丈夫、その子も今まで「医者にかかったことのない」程丈夫な、健康一家であつたのです。ところが、近頃その子がどうも元気がない、家の中にいたがる——というので診察に来たのです。私の前に坐らせてみると、栄養のかなりよい、日焼した子供です。然し、少し呼吸が早い。早速聴診器をあてゝみると、確かに呼吸音が粗い。直ちにレントゲン——普通は必ずツベルクリンをして陽性だとレントゲンということになるのですが——をとつてみると驚いた!! 両肺全部が粟粒を播いた様なのです。目をこすつて見直してもあるのです。粟粒結核だつたのです。勿論入院しました。体温を測るが平熱、食欲も非常に旺盛です。之が病気とは思えない程です。

結核菌が体に入つてこの様な粟粒結核になる迄には少なくとも半年位はかゝります。その間にツベルクリン反応がしてあれば、陽転を知ることが出来たでしょう。レントゲンをとつてあれば肺門結核で止めておくことが出来たでしょう。或いは

B・C・Gの注射がしてあれば、結核菌をうけても発病しなくてすんだかも知れません。

ところがその一家の不幸はそれだけではありませんでした。子供の感染源がどこか？ どこから結核菌をもらつたのか？ 一家の健康診断をしたところ、父親が空洞を持つていたのです。柔道でもやりそうな立派な体格ですが、既に空洞があつて、それが最近活動を始めているという状態にあつたのです。

以上の例から、見かけの健康がいかに当てにならないか。殊に結核の様な慢性の経過を辿る病気が、いつの間にか体を蝕んでいくか気付いたときはもう遅い、——こうした悲劇に日常非常に多く接して、本当に残念でならないのであります。

お母様方が健康だ、と思つていても、ビタミンAやBが不足であつたり、検便してみると蛔虫卵が沢山あつたり、トラホームが始まつていたり、……。もしビタミンAが不足しつづけたらどうなるか、Bが不足していたらどうなるか、どなたもお答え下さると思ひます。

以上お話しただけで、私どもの努力してゐる予防医学について理解していただけたと思ひます。乳児なら月一回、幼児なら二、三ヶ月に一回は、必ず健康相談をうけて欲しい。保健所がだんだんその相談に応ずる中心となりましょう。開業医の方々も協力して下さいましょう。然し予防医学を充実させる根源は、お母様たちの声なのであります。ふだん元氣だといひ……こうした無精は致しませんまい。「転ばぬ先の杖」

私共医者はこの杖になりたいのです。

からだと同じ様に、こゝろにも予防医学が必要であります。之が最近精神衛生の大きな仕事になつて来たことは、本當に喜ばしいことであります。

子供のこゝろ、特に社会に対するこゝろの態度は、ゆがみ易いもので「泣き易い」「云うことをきかない」「わがまゝである」「甘えて困る」——こうしたお母様を困らせる問題は、毎日々々家庭生活の中で繰返され、お母様は恐らく終日小言をいつている状態ではないかと想像します。

「何々してはいけない」「ちやんと返事をなささ」「どうことをきくなさい」「押入ですよ」「お巡りさんですよ、お医者さんですよ、屑屋さんですよ(三者はいつも同類項)」——そして最後にはビシヤリ。まことに殺伐な家庭であります。

然し落付いて考えてみましょう。「母親を困らせる子供」はどこから作られたのか？ ということを。そうすれば、お母様方はどなたも冷静になる、或いは冷水をかけられた様に感ずるかも知れません。困つた子供に誰がしたのか？ ——それは家庭であります。母であり、父であり、祖父母です。子供は發達の糧を家庭からとつてゐるのです。幼稚園でじつと子供の様子をみてゐると、家庭でお母様はあんなこととしていられるな、お父様はこんなことをしていられるな、と想像できるのであります。子供は家庭の鏡で、みなここに映つてゐるのであります。

しかもその鏡の映像は、すぐにはつきりと映るものではありません。極く幼いときからの生活が滲み出ているといつた方がよいでしょう。私は今、母親を困らせる子供の予防は、「乳児期から」ということを考えています。今七、八ヶ月の赤ちゃん一組の家族があつて、こういう性質のおばあさん、お母さん、お父さんがいて、こんな扱い方をしている——どういふ場合、その子が三、四才になつたときに、どんなこゝろの態度を持つか、大体見当がつく程です。

お誕生の頃に、極度の食慾不振で、鼻から管を入れて栄養をとつていた子供、之は母親が子供に泣かれるとお乳を与えていた、それと共に、夫婦の中が円満でない、祖母がいて育児に口を出す——この子供が五つになつたとき、既に母親の云うことを全くきかない子供、気に入らないと母親の頬をビシヤビシヤと打つという子供となつて、相談に來られたのです。この子が、このまゝの環境で児童期になり、青年期になつたら……。

子供のこゝろの態度にゆがみを持たせないためには、乳児期より、家庭の誰もが絶えずこゝろを磨く努力を惜しまないことゝ、子供を正しく取扱うこと——をしなければなりません。が、同時に、子供のこゝろを研究している研究者に、一寸した取扱ひについても相談する——こゝろの健康相談とでも申しましうか。私どもは、今、この努力を熱心に行つています。幼いときの小さな歪みほど、癒すのは簡単です。之が歪んだまゝ大きくなると、極端な神経症や不良が出來上るので

神経応  
↓  
不良少年

素直な  
素直な  
素直な

あります。癒すのは大変であります。

そこで問題は、今、幼児期とくに幼稚園  
年令の子供の「親を困らせる問題」をどう  
したらよいか、ということです。

第一に、子供を叱つても無駄だ、という  
ことです。殊に小言、——これを毎日繰返  
しするのは、却つて小言不感症の子供を作  
る様なもので、問題の解決にはなつていません。

第二に、問題のある子供は可哀想な子供だということ  
です。母親、祖母、父親がよつてたかつて問題の子供を作り上  
げておきながら「困つた子供」として叱られているのですか  
ら、疝を高ぶらせて叱らずに、その子こそ一番可愛がつてや  
らなくてはならないのです。

第三に、可愛いがり方ですが、之はそれ逆行つて来た可愛  
いがり方ではなく、どうしたら人の為役に立つ青年にするこ  
とが出来るか、という線で、可愛いがり方をすることです。  
ですからその可愛いがり方は、母親や祖母に頼りかゝつて来  
るのを、突放すこともしなくてはなりません。

最後に、そして之が一番大切なことなのですが、子供は親  
の鏡でありますから、子供の問題を自分の問題として、両親  
祖父母は毎日こゝろを磨いていかななくては、とてもおこがま  
しく、子供を叱るところではないのであります。ところが  
両親も祖父母も、自分を出来上つているものと誤り信じてい

る。或いは、親の言うことは絶対だ、などと放言している  
「問題の親」がある程です。親のこゝろの態度が変らないで  
どうして子供のこゝろの態度を変えることが出来ましょう。

こゝろの衛生については、二月に別の方面から申し上げま  
すが、今日は、育児のねらいとして、からだどこゝろの病氣  
を、いかに考え、いかに予防したらよいか、お話ししたかつた  
のです。

こゝろ、からだとも、健康に育ていくためには、小さな  
歪みを見付けて、それに対応する策を立てることが、いかに  
大切か、又、その策として子供に当るよりも、両親、祖父母  
が考え改めることが大切なことを、お話ししたかつたのであり  
ます。

次の十一月の母の講座には「病氣の看護はどうするか」を  
お話ししましょう。

（三頁より）

七、就学前教育施設は従来はまだ未発達で、その普及発達が  
先ず望まれる現状においては、設置ないし経営はなるべく容  
易にする考慮も必要で、この点からは一概には論ぜられぬに  
しても、増加傾向の強い保育所の規模が比較的小さい事實は  
簡易幼稚園の構想を再び想起させるものである。

（一九五一・五・三一）

# 會から

○待望の講和条約調印は、本誌も亦、国民的大關心を以て迎えました。本号巻頭において主幹はその感想を述べています。

○本号の村上氏の寄稿は、文部省調査局の資料によられたもので、同局調査官多田氏と執筆者村上氏との好意を感謝します。

○鈴木氏の論文は、保育上のこの貴重な問題について、精密な研究を試みられたもの、興味が深いと共に、實際保育者としてこゝに注目されたことを多とします。

○東氏の文章は、我國保育史の一貴重資料ともいふべきものです。本誌創刊後第五十巻を記念する心を以て、特に氏の執筆を乞いました。特に氏の清福なる悠々の御健康を祝します。

## ○津守、相場、莊司三氏の渡米

本誌の長き誌友であり、屢々寄稿によつて、讀者諸君に親しみの深い、お茶の水女子大学の津守眞氏、慶應大学の相場均氏、廣島大学の莊司雅子氏は、相ついで渡米せられ、津守、相場兩氏は彼の地の大学院に留學し、莊司氏は尙く幼児教育の視察をせられます。そしてその有益な幼児教育上の報告を以て、いづれも本誌を飾られることを、特に契約されています。君の御期待を乞います。

## 『幼児の教育』編集

編集主任  
協力委員

倉橋惣三  
牛島義友  
及川ふみ  
齋藤文雄  
多田鉄雄  
波多野完治  
山下俊郎  
西山浪太郎  
(五十音順)

## 日本幼稚園協會

編集委員

## 保育應答研究會御案内

○十月二十日  
○十一月十七日  
○十二月十五日  
○会場 フレーベル館講堂  
○講師 倉橋惣三先生  
みなさまのお持ちよりになる保育の實際問題につき、倉橋先生を中心として出席者一同で互に研究しあう新しい企画です。  
——来会隨意、会費不要——  
株式會社 フレーベル館内  
保育應答研究會係

## 幼児の教育 第五卷 第十一号

定価 金五拾円

昭和二十六年十一月十五日印刷  
昭和二十六年十一月二十日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉橋惣三  
発行者

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式會社

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田区神田神保町二ノ四

發賣所 株式會社 フレーベル館

電話九段(33)三六二・三六三・三六四・三六五

振替 東京一九六四〇番

○本誌御購読について注文申込その他は凡べて發売所フレーベル館宛に願います

# ほんとうに楽しい保育紙芝居

新刊

## お母さんのおたんじょう日

送料三冊ま  
で 50円

副島ハマ作・前島とも画……………12枚250円

幼ない兄妹がお母さんの誕生日に20円のおとづかいで草花の苗と、ひよこを一羽買ってプレゼントとしました。やがて苗は美しい花をひらき、ひよこは育つて卵をうむようになります。毎日毎日おたんじょう日のようですと、お母さんはよろこびます。

ピノツキオ 幼児用……………12枚 250円

あやつり人形のピノツキオがおばかさんの国へいつて、ろばにされる話、大好評  
稲庭桂子作 小谷野半二画

おさるのかごや 童謡紙芝居 幼児用…… 8枚 170円

おさるのかごやごっこをして遊ぶふよい子たち

ポポちゃんのおともだち 幼児用……………12枚 250円

おおかみの王さま 幼児用……………12枚 200円

ちこちゃんとお人形 見童用……………12枚 190円

こねこのちろちゃん 幼児用文部大臣賞受賞…… 8枚 160円  
手芸作限定版…… 7枚 260円

お母さんの話 見童母の会用……………16枚 250円  
文部大臣賞

アンデルセン童話を紙芝居化したもので、理想的な香りたかい絵をもつて母の愛を美しく象徴している(文部省)

編集 教育紙芝居研究会

発行 **日本紙芝居幻燈株式會社**

東京都港区芝新橋7ノ12

12 月 号 予 告

観  
察

# キンダーブック

繪  
本

KINDER-BOOK  
〔うちじゆうたのしく〕

第 6 集

第 9 編



☆自己創造にたえまない

幼児のために是非与えたい☆

A4判・12頁・月一回発行  
はさみ頁・解説付  
定価 40円・送料 6円

「うちじゆう  
たのしく」

此巻の各頁は、いづれも、楽しい家族感情に溢れています。自分だけへの、たゞの「お正月こい〜」ではないのです。正月を待つ夜の楽しさにしても、子供ひとりの夢ではなく、親と子とのいっしょの喜びです。わが家に来る正月は隣の家にも来ます。正月が自分だけや、わが家だけへ来るのだつたら、こんなに楽しみなものではありません。それが裏へ裏の賑やかな絵の心です。

発行所

東京都千代田区神田  
神保町二丁目四番地

株式  
会社

フレール館

振替口座東京  
一四六四〇番